

ばんえい

DRAFT.RACE

NO. 15





会報目次

会報発刊によせて	1
競馬執務の思い出	2
競馬執務の思い出	4
ばんえい雑感	6
イブニングレース	9
「ライブル」は多いけれど	10
場外馬券で健闘するも今年も及ばず	11
マスコミに取上げられたばんえい	15
場外発売について	22
広報活動について	24
ばんえい便り	27
ばんえい競走初めての血統	29
祭典ばんば紹介	30
馬産奨励事業奨励者名簿	34
番組編成要領	42
リーディングトレーナー、ジョッキー	46
種雄馬ランキング	47
賞金受賞ランキング	48
市、道宮競馬成績	49
引退馬	50
市、道宮競馬日程表	57

会報発刊に寄せて



北海道市営競馬協議会

会長 坂東 徹

昭和五十九年度会報の発刊にあたり、関係各

位のご健勝を心からお喜び申し上げますとともに、市営競馬の開催並びに本会の運営にあたりましては、常日頃ご指導、ご協力を賜りましてここに厚く感謝申し上げます。

さて、昭和五十九年度の市営競馬は、昭和五十六年度以降低迷を続けている発売額、入場人員の低下に歯止めをかけるべく、四主催者ともそれぞれにファンに喜んで頂くイベントやサービスを実施したり、イブニングレースの実施、広報活動の拡大など諸般の施策を実施したところでありますが、残念ながら売得金総額では前年対比で九七・二パーセント、一日平均の前年対比では、九二・六パーセントでありまして、四市各主催者の願いも空しく四年連続の成績低下

となったところでございます。

今後、更にこのまま推移するとすれば、ばんえい競馬はその存亡をかけた重大な岐路に立たされるところでありまして、私共といたしましては、昭和二十八年以来ファンとともに発展を続けてきたばんえい競馬の灯を消すことのないよう不断の努力と万々の対策を緊急に講ずる必要があり、主催者一同一丸となって日夜その検討に腐心しているところであります。

このような背景にあつて今後検討すべき課題といたしましては、

- 一、場外発売の新規市場開拓
- 二、場外向け映像伝送の実施
- 三、冬季開催（特に正月開催など）
- 四、各種催事（冬季間）とのタイアップ

などについて検討し、その具現を図ることがファンに対するサービスにもつながり、ひいては、ばんえい競馬の発展にも寄与するものと考えられるところであります。

これらの事項は、関係法令の改正や莫大な経費を要するものでありますが、長期的な観測に立つて検討に値することではないか、と考えるものであります。

又、競馬の公正確保、開催経費の節約、開催運営の一貫性等を図るための一部事務組合への移行も過去長い年月をかけて検討されて参りましたが、大乗の見地に立つて実現に踏み切る時期が到来したのではないか、とも考えられるところであります。

昭和六十年度的におきましては、場外発売の拡充による発売額の確保、ファンサービスの強化による入場人員の拡大を図り、開催諸経費を削減して収益の増大に努めるほか、さきに申し述べた諸対策について、四主催者こそつて真剣に検討し、その実現を図つて、この難局を乗り切りたいものと願うものであります。

今後とも皆様のなご一層のご支援、ご鞭撻をお願いいたしまして、会報発刊の機会に私見を交え、所懐の一端を申し述べ、ご挨拶いたします。

競馬執務の思い出

帯広市総務部長

菅原 靖夫

行政組織の持つ致命的な対応の遅さ、対策が後手後手に廻る歯痒さは誰しも公務員として、自治体に席を置く者が一度は感じる思いではあるまいか。

まさに私の農務部長として競馬に携わった五年余りの年月は、この悲哀を充分に味わう結果となった。

私が農務部長として初めて市営競馬の開催に携わった昭和五十五年、帯広市営競馬は売上金において過去最高を記録し、この年地方競馬主催者の多くが競馬事業の隆盛に酔い、競馬の将来に希望と楽観を持った。

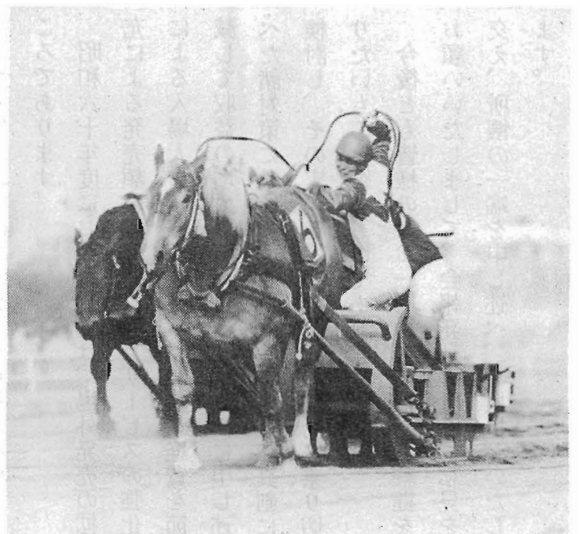
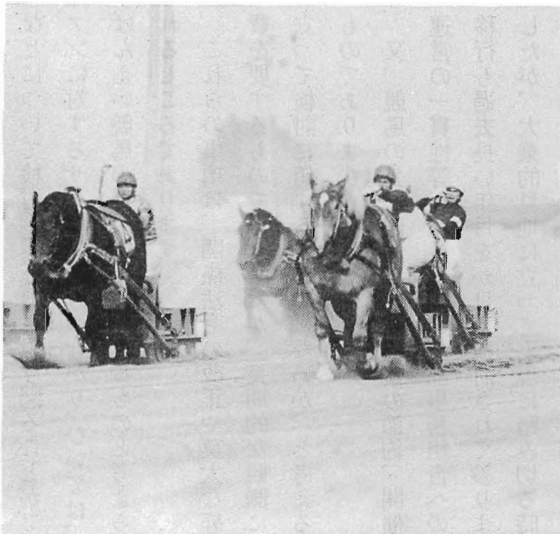
ところが五十六年に至って事態は暗転した。中央競馬を除く公営競技全体が、その中でもとりわけ地方競馬が急な坂を転げ落ちる如く売上

不振に追込まれるに至った。まさに天国と地獄を見る結果になったのである。

このような状況の中で不振打開の糸口として、またばんえい競馬全体の永年の懸案事項である一部事務組合設立の動きが、にわかには活発化したのである。

私は、この間一部事務組合については、設立に積極的賛成を唱え続けて来た。なぜなら現在の公営競技全体が直面している長期的低迷に対して、行政が対応出来る唯一有効な打開策は、一部事務組合設立をおいて他にないと信ずるからである。

もちろんすでに組合により競馬施行を行っている本州の各場も等しく不振をかこっている状況ではあるが、一般的に言われているように一



部事務組合設立によって、人件費や開催経費の削減あるいは開催実務の効率化といったメリットがあるだけではなく、私は本来的には競馬経営諸施策のドラマチックな展開を可能にする積極的なメリットを有している面にその価値を認めるからである。

現在の実情を見ても四市合せてわずか二百三十億あまりの売上に対し、四場の競馬場を使用し膨大な賃貸料、競馬場維持経費の負担をしいられている現実があり、先行き現在の不振が続けば経費面で競馬場の維持が不可能になるのは、自明のことであろう。

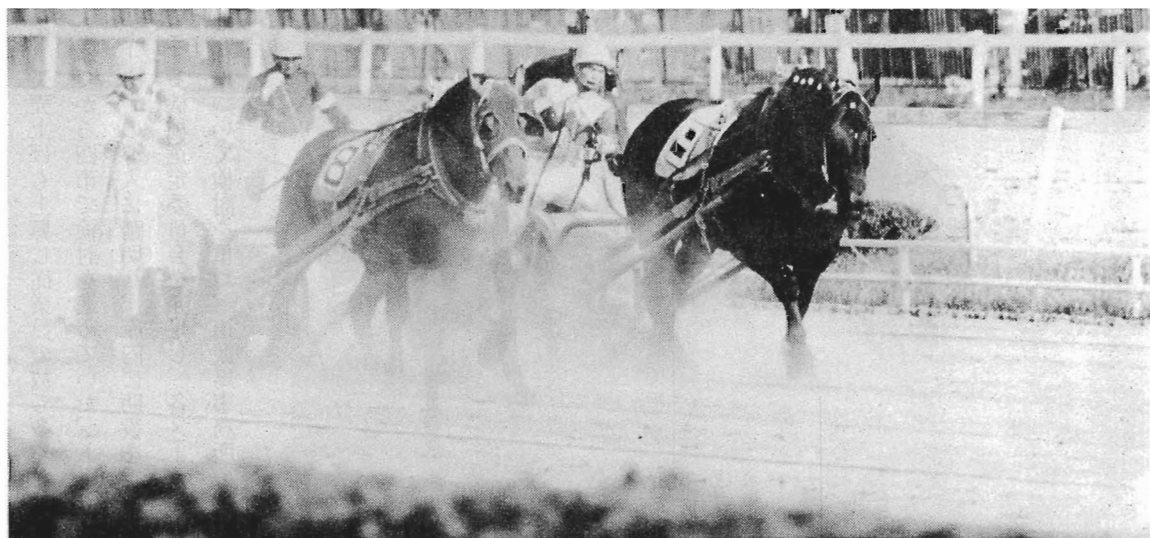
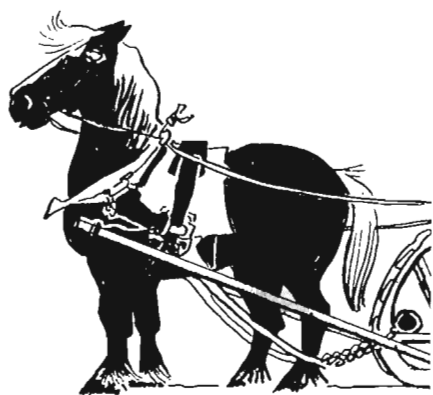
その場合競馬開催場を二場に集中し、他二場については施設を処分し、これに変えて実況放映・ファンサービス施設の完備した場外発売所を新設することによって、経費と売上の両面で改善を計ることが可能になるし、また札幌市を始めとする道内主要都市に場外発売所を設置する、電話投票システムを導入する等の積極的かつ実効のある施策を打出すことも一部事務組合が前提となって初めてその足掛りをつかめえることなのは、ばんえい競馬サークルに身を置く誰しもが充分承知のことと思う。

今日までの体制に固執し、旧来の経営姿勢にしがみついているうちは、ばんえい競馬ひいて

は地方競馬全体に光明は無いと言い切っても過言ではあるまい。

思えば五十六年晩秋、ばんえい競馬のフィナーレを飾り、帯広競馬場を埋めた九千有余のばんえい競馬ファンが熱い歓声とどよめきの中で行われた農林水産大臣賞典の興奮を過去のものとしてしまうのは、私情として無念やるかたない思いである。

昭和二十八年の市営競馬施行以来多くの先輩諸兄の努力と尽力の上に積重ねられたばんえい競馬を無為のうちに水泡させるとしたら我々の責任はいかばかり重いのかと考えさせられる今日この頃である。



競馬執務の思い出

岩見沢市総務部長

谷村 寿昭

競馬業務を担当してから足かけ十年を経て昨

年六月総務部に移りました。振り返って見ると月日のたつのは早いものと感じます。この間多くの人々に、ご指導を賜りましたことを、厚く感謝申し上げます。

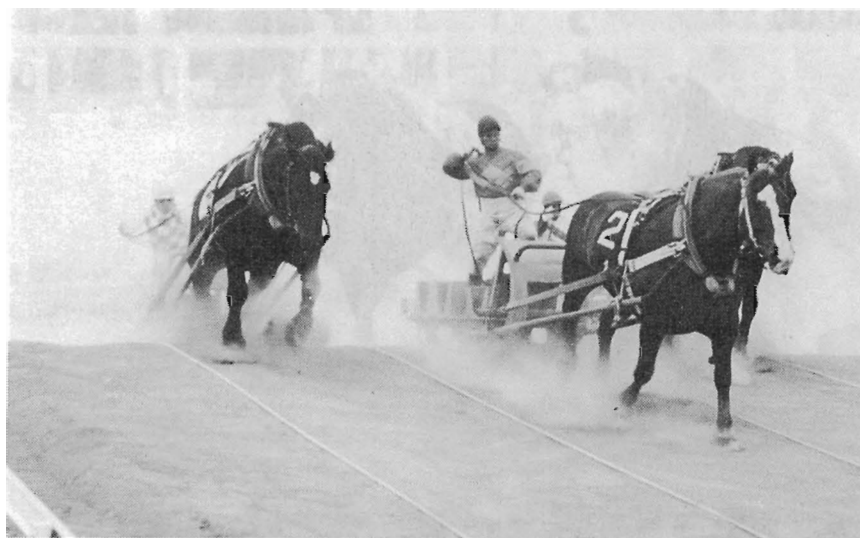
思い出せば、五十年春から夏にかけての競馬で委員長として開催業務を勉強し、小さな騷擾事件に合い、小突かれながら、無我夢中の中に全日程が終了し、やれやれと思う暇もなく、旭川競馬場で、馬機積載重量物の不正事件が発生し、その余波は当市にも波及し、前年に同じ事が発生していた事が発覚し、議会でも取り上げられ、警察署でも厳しく追及調べを受ける等、ばんえい競馬始まって以来の一大不祥事件であった。公正運営を期するには、第一に競走現場の走路、競走用具を整備することを痛感させら

れた初年度でありました。

北国の空にも、ようやく新緑の香りが萌え始めた五十二年五月二十四日、はるか赤道を越えた南国、ニュージーランド国から珍しいお客さんが訪れてきました。この人タウランカ市で競馬クラブ会長を務めるロバートシルソン氏で、外国から、ばんえい視察は初めてとあって、どう対応してはと、皆なで心配していたところ、気さくに握手を求められ、短い一時ではあったが、ばんえい競馬の醍醐味を心からご満悦されて、会場を後にして帰りました。二年後に私が視察出張の時に、オ克兰ドのエラスリー競馬場で再会し、互に手を取り合い「ばんえい競馬」はすばらしいと、二年前の写真を見ながら、人なつく喜び合いました。

次には、岩見沢競馬場は、札幌のファンが多

く、又売上げも上昇し従業員の数も多くなり、かねてから四市で検討を進めていた、トータリゼーターの導入に踏切り、庁内に助役を委員長とする機種選定委員会を発足し、各メーカーの機種について検討を重ね、道競馬事務所の意見



を聞いて、「富士通」に決定し、五十二年一月臨時市議会に提案した処、一日の開期が延びて二月に入り、ようやく議決となりました。この影には、各メーカーが、色々な手をつかつて、自社の売り込みに議員を巻込んだ一面もあつたように思われた。この様な中で、懸案のトーターゼーターは「ばんえい競馬」界の先進として、四月オープンにこぎつけたが、中央札幌競馬開催と併催する日が多く、特に一流競馬場並みの規模に改装した事もあつて客足が減り、売上げもこの年は低下するという不成績、トーター導入すると売上げは延びるという説もいささか皮肉に終つた。

然し八月のお盆は俄然人気挽回し、十八億五千万円を記録し、全道ばんえい競馬のレコードとなつて、はじめてトーターの威力がなければ実現不可能だつたに違いないと思つている。

次にファン層の拡大については、常に広くファンに馬と騎手を知ってもらふ事であると思つていましたので、そこでファンに出走馬を選んでもらい、関心を得ることが早道と考え、五十四年初めて四歳、五歳馬による人気投票競走（ポブラ賞）を設定し、種々問題を解決しながら、関係者のご理解を賜り実施する。当日出走馬十頭に記念の賞状、メダルをお贈りした時多くの

障害を乗り越えて実現したこの感激は、今だに忘れることのできない喜びであります。

五十八年は岩見沢市開基百年、市宮競馬三十周年の年であり多くの記念行事を催し、八月三日、毎年競馬場主催の花火大会は市民の楽しみの一つであり、それに合せて、ナイターを実施した。発走は日没後の七時三十分、各馬は水銀灯に照らされた白い砂漠の中から、突進してくる昼間とは一味違つたムードの実戦さながらの迫力あるレースに一万六千人の入場者は、ヤンヤの喝采「本番ナイターがあればな…」の声も多かつた。この事が薄暮レース、ナイター競馬のきっかけになつたとすれば、大変良い催しであつたと思つています。

思い出すままに書きましたが、一日の競馬が終り各執務委員から異常なしの報告のあとスタンド一面に捨てられたはづれ馬券も片付けられ、先程の興奮も冷えて静謐蟲つたスタンドを見ると我に戻つてくる。その時、今日一日の無事故を喜び一人安堵の胸をなで下すのであります。最後に近年厳しい環境にあります、これを越えて益々の御繁栄されることを、心から祈念いたします。



ばんえい雑感



帯広市営競馬開催執務委員長

小林 豊

(帯広市農務部長)

いただいたものである。

以来二十年余を経た今日まで、他の部署に勤務していたこともあり、この「どくほん」の存在さえ知らなかったのである。

昨年の十月末、前開催執務委員長 菅原靖夫の後任として二十数年振りに古巣(?)へ舞い戻り、この「どくほん」を受けとったものである。

「十年一昔」も現代の時の変転を考えると、「三年一昔」くらいであろうから、その意味では「七昔」にもなろう。

道営のみなさん、各市の競馬担当の方々、市営競馬協議会の方々や馬主会・調騎会の方々にお会いしてもごく少数の方を存じあげているだけに過ぎない。しかも、自分のことはいざ知らず相当の年輪をきざまれたことにびっくりもする。それにも増して近年のばんえい競馬の移り変わりにはまだ驚異の感すら抱かざるを得ない。

(この間、とんと競馬場にはご無沙汰していたが、せめて市営には少しは貢献すべきであったと反省するが。)

いわば古い手づくりのばんえい競馬が一度も二皮もむけて近代化、公正化、迅速化、合理化、広域化、専門化されており、こうした改革に取組まれた関係各位のご労苦に深甚なる敬意を表

内田靖夫氏(元北海道畜産課課長補佐、元市営競馬協議会事務局長)の労作「ばんえいまんどくほん」(北海道市営競馬協議会発行、昭和五十三年刊)を楽しく読ませていただいた。

絵筆の細かい息づかいと行間からにじみ出る馬とばんえい競馬への熱い想いが読む者をとらえて離さない。それは、馬とばんえいに対する氏の深い愛情と言えよう。

昭和五十三年に刊行された「ばんえいまんがどくほん」は競馬法施行三十周年、北海道の市営競馬施行二十五周年、北海道市営競馬協議会

創立十周年を記念して発刊されたものである。

発刊以来およそ七年の現在、何故、今あらためてこの「どくほん」のことが……。

昭和も三十年代の半ば、私は氏からばんえい競馬のイロハをご指導いただいたことがある。

当時はもちろんコースもU字型であり、施設も設備も、いや、ばんえい競馬そのものが現在とは比較もできないものであったことは言うまでもない。

四年間ほど競馬運営に多少かかわりを持ったことからばんえい競馬の「何たるか」をご教示

するものである。

さて、関係者のひたむきなご努力により、多くの変革をみた近代ばんえい競馬も、今また大きな時代対応を余儀なくされている。

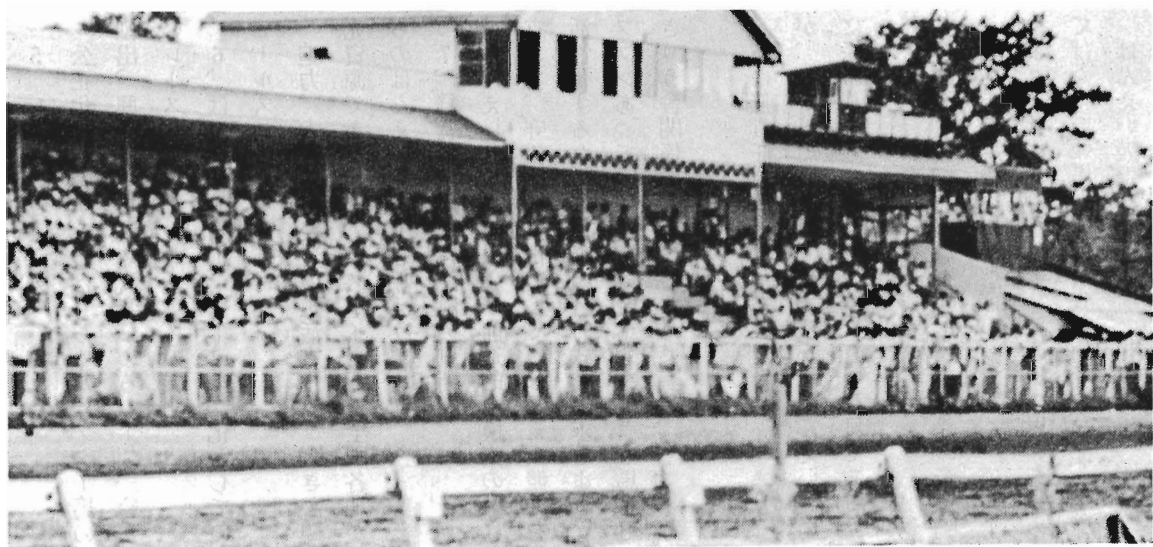
数々の要因が複合的に作用しあい、昭和五十五年を境として公営競技全体に大きなかげりが見られる。

特に地方競馬は、昭和五十九年をみても低落傾向が著しく、底に達したかどうかすらわからない状態であり、地方競馬の約半数が赤字経営の苦しい境地に立たされている。

もちろん、手をこまねいているわけではなく、それぞれの主催者は多様な打開策を講じている。佐賀・中津のミニ場外、高崎・大井・名古屋・福山の外向場外、笠松・荒尾の電話投票、岩手の光ファイバーによる映像伝送等々、更に徹底した経営合理化がかつて類をみない程に進められている。

ばんえい競馬においても開催四市による相互場外をはじめ釧路場外など新たな振興施策の実施と経費の切り詰めに取組み、低迷打破の努力を続けている。

さて競馬——地方競馬はどうなるのだろうか。思い悩むのは決して私ひとりではなからう。競



旧 帯広競馬場

馬サークルと言われるものひとしく大きな課題を背負っている。

競馬の本質は変わっていないと言う。つまり馬が走り（もちろん、ばんえい競馬は引つ張ると言うべきか）勝馬を予測し投票する。変わっているのは競馬を取巻く環境である。様々な要因が複合していると前段述べたが、そのひとつはファンの固定化である。

地方競馬のファンは四十歳代半ばが大勢を占め、若年層・婦人層は極端に少ない。

これらは入場人員と売上との減少に顕著に表われているが、ギャンブルとしてマイナスイメージ、レジャーの多様化、経済的理由、また生活意識の変遷にも大きく作用されているととらえるべきであろう。

しかし、暗い予測ばかりでもない。

諸外国に見られる健全なレジャーとしての競馬観、いわばギャンブル観の欧米化が見られるという説である。オランダ・フランスを中心とするスポーツ競馬とも言える市民生活に密着した文化としての競馬である。

帯広市近隣町村においても八地域で祭典ばん馬大会が実施されている。大会風景はまさに「お祭り」であり、奥さんが早起きして作ったにぎり飯と肴を前に、お隣と一杯交しながら一家総

出の観戦である。

優勝馬は隣の生産馬であり、騎手は向こう隣の主人である。

ばんえい競馬は、北海道開拓の歴史に花開いた生活文化であり、まさしく守り発展させるべき文化であろう。

そうしたばんえい競馬振興には、ひたむきな経営努力はもちろんであるが、思いつくままかつ無責任にその活性化のための方策を列挙してみよう。

1、競馬場環境の改善

ハード・ソフト両面に亘る整備を進め、滞留型に配慮する。高令者・婦人・若者・家族連れが楽しめる施設、イベントの整備

2、楽しみ方のバリエーション

生活、レジャーに分極化、二極化、両極化が進むという。投票方法も連複・単勝・単複にとどめず多様な方法を導入すべきではないか。

3、商圏の拡大

時間的、位置的拡大を積極的に進める。

4、ニューメディアの有効利用

商圏の拡大、参加形態の拡大、新投票システムの開発、決済システムの多様化など省力化に資すること、極めて大きいものがあろう。情報産業の最右翼である。

5、レースのひと工夫

公正化に配慮するのはもちろん、スター馬の創出、興味あるレース、楽しめるレース、珍しいレース、ユニークなレースの展開

6、ばんえい競馬——ローカル文化としてのセールス

迫力、大きさ、土着の生活文化は、大きな観光資源であり、セールスポイント。全国各地からのばんえいツアーを呼ぼう。

7、経営形態、経営意識の刷新

ばんえいサークルのより前進的な模索の上に立って、守るべき文化としてのばんえい競馬を活性化するために事務組合方式を追求しよう。ファンあつてのばんえい競馬、主催者も馬主もきゆう舎関係者も今こそ考えよう。

誠に無責任な放言ではあろう。

が、しかし短い期間ではあるが、ばんえい競馬に係わりをもつ者としての素直な意見である。

雪の降る日、白い息を吐き、首の鈴の音を鳴らして走る馬糧への郷愁ばかりでなく、道産子の我々と共にあつた「馬」への深い思いをこめてばんえい競馬の隆盛を心から祈るものである。
ばんえい競馬ばんざい。



イブニンググレースを実施して

北見市農務部参事

坂井清治

北見市では、五十九年度の競馬開催に当り農水省が通達の緩和措置として認められた薄暮レースを実施してみましたので、その概要を述べてみることにいたします。

この開催については、同じく実施しました帯広市とも協議をし、試行と云うことで曜日を固定せずに、北見は土、日、月の三日間、帯広市は土、日、月、火の四日間と連続して行い、その結果を見ることにいたしました。又、呼称についても「たそがれ」「夕ぐれ」「薄暮」「サンセット」等内部でいろいろな名称が出ましたが、何か新聞紙上を賑わした事件等と混同され、イメージが良くないと云うことで、分り易くて親しみのある「イブニング」と呼称することになりました。PRについても、話題としてマスコミ

に取り上げてもらう一方、ファンにも会場で見板、放送等により周知を計りました。

第一レースは午後一時半、最終レースを六時半発走としましたが、従事員の方は帰りが遅くなり、ご主人の夕食の仕度も遅れますので、五百円の手当を支給する一方ファンにはサービスとして、六レース終了後にハッカのおしぼりとハッカ菓子をプレゼントいたしました。

実施をしてみますと知らずに早く来たファンもいたり、「昼休みを利用して来たのに買えないじゃないか」と云う苦情もあつたりしました。

入場者のピーク時は平常と比し、約二時間のづれ込み程度でしたが、退場時は急激に減少いたしました。特に日曜日の家族連れは、三時を過ぎると平常時と同じように帰路につきそのため

三時以降の滞溜者は大巾に少なくなりました。ファンの声としては、遠くから来たファンは帰りが遅くなるので平常の方が良いと云う意見がある一方、もつと遅くナイターを実施せよと云う意見に分かれておりました。

開催中は、あまり暑い日はありませんでしたが、最終レースの頃には、辺りはうつつすらと夕闇に包まれてまいりましたので、走路の照明に灯を入れる等演出効果を計ってみました。

結果は、三日間の発売額で、前週に比べ三〇増、前年同期に比べ十四・七％増になり、特に土曜日については、前年同期に比べ入場者で十一・二％、発売額で二十一・七％と大巾にアップし、成功裡に終了することが出来ました。

六十年度的については、これらの結果を下にして土曜日のみに限定をし、ファンサービス等の内容を検討し実施したいと考えておりますが皆様方のいろいろなご意見をいただき、より良きイブニングレースを行いたいと思っております。よろしくご指導願います。

「ライバル」は多いけれど

岩見沢市畜産課長

中川達雄

「どうか振り向いてくれますように。私だつて頑張っています。」——ばんえい競馬より——

どこかの伝言板に書いてみたい、どこかの誰かに話しかけてみたいと考えているうちに最早、昭和六十年年度の予算編成が始まってしまった。

昭和六十年年度の予算編成にあたっては、前年比伸びがどうの、企業的な感覚がどうの、いや歳出面での取り組み方がどうの等々、色々な意見でまとまる様相もなく日々が過ぎてしまっているこの頃です。

今日の地方競馬をとりまく情勢は非常に厳しく、中央競馬場（中央競馬会の映像伝送装置策等）の施設の充実などによるファン動向は、地方の競馬場には気になる一つであり「ばんえい競馬」の魅力を堅持するための方策も大切であ

ろう。熱烈なばんえい競馬ファンをここで確実に引きとめるために、私共はこれからどう策を立てるべきか、自問自答してみるが、今一つ確たるものがないのが現状ではないだろうか。

地方自治財政の健全化と市民福祉に寄与し、市民の健全な娯楽場として大きくその目的を果してきたが、その「ばんえい競馬」が今や存廃論が飛び出す岐路に直面している。

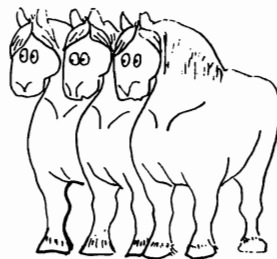
「どうしたんだろう」

レジャーの多様化だろうか、いやギャンブル離れだろうか、ばんえいの開催内容があつた頃（昭和五十年代）と異っているのだろうか、いやもっとファンサービスのための相互場外と施設の近代化を進める必要があるのだろうか。

今年こそはこの問題を解決するよう予算内容

を精査して、知恵と勇気をもって対応しなければならぬと痛感している。

今や「ライバル」が多いけれど「明日はきっと「ばんえい競馬」のファンに、どうか振り向いてくれるように」ばんえい競馬を少し愛して、長く愛してを念願し昭和六十年の予算をまとめていくところです。



伝言板

「どうか振り向いてくれますように、私だつて頑張っています。」

ばんえいより

場外馬券で

健闘するも

今年も及ばず

北海道市営競馬協議会

事務局長 鈴木一彦

昭和五十五年をピークとした発売成績は、昨年度まで連続三年低迷を続け、今年こそはと場外馬券発売に期待をかけたばんえい競馬も、全国的な公営競技調落の波には勝つことができず、四年振りの米作大豊作にもかかわらず売得金一日平均前年対比九二・六％に留まり、その雪崩現象にストップをかけることができず、連続四年間売上ダウンのレコードを樹立してしまった。

(開催回数と日程)

開催回数は、北見で開催した科学万博協賛競馬の一回増を含め、史上初の二十一回一二六日を消化した。

本年度は、本格的な四競馬場間の相互場外発売、全国初の中央競馬会釧路サーピスセンターでの相乗り場外発売、科学万博協賛競馬の一開催増、薄暮競馬のテスト開催、全レース前売の実施等々売上増につながる諸施策を図り、低迷する不況を一気に吹き飛ばすべく、期待に胸を張らませながら四月二十二日岩見沢競馬で開幕、前年比一回増の二十一回、一二六日を開催し、ばんえい史上初の師走競

馬の開催で十二月十一日北見競馬を最終日として無事閉幕することができたが、成績は期待を大きく裏切る結果となった。

(売得金額)

本年度の総売得金額は、

二二九億五三七万円で、前年対比六億六、三六三万円減(九七・二%)の成績となり、一開催増、相互場外、釧路場外等に期待をよせたがその効もなく、四年連続減少の憂慮すべき事態となった。各競馬場別の売得金額は、

旭川 六六億六、六六八万円
帯広 五四億三、三二二万円
北見 五九億七、一七〇万円
岩見沢 四八億三、三七六万円
で、旭川を除き三場は予算を大中に下廻った。

一日平均売得金額の前年対比は、
59年度 55年度対比
旭川 一〇九・八%(七四・六%)
帯広 八九・〇%(六九・〇%)
北見 九五・四%(七四・二%)
岩見沢 七八・三%(五九・八%)
平均 九二・六%(六八・九%)
で、58年度八六・三%に落ち込んだ旭川が復調し約一〇%増と健闘したものの、前年約一〇%確保と好調であった帯広、岩見沢は大中にダウン、北見は連続三年や

つと九〇%台を確保したが、場外馬券本格的発売の振興策も意外な結果に終り、四場平均九二・六%の低調な成績で終了した。

場外発売が本格化すれば、本場発売額が低下することは当然のことであるが、しかし、本場の落込みが予想をはるかに

上廻ってしまった。

本場の一日平均売得金額の前年対比は

59年度 55年度対比
旭川 八九・一%(六〇・五%)
帯広 八〇・三%(五三・三%)
北見 七四・五%(四九・八%)
岩見沢 六二・九%(四八・一%)
平均 七〇・七%(五二・六%)
で、昨年度の九三・二%を大中にダウンし、特にピーク時の55年度に比較すると約1/2まで落ち込む調落振りであった。

全国一日平均売得金上昇率(一月〜十二月)は八七・二%で前年度の九一・九%をさらに下廻ってしまった。

全国三十一競馬場中一〇〇%を確保した場は二場に留まり、第一位の一五・六%の紀三井寺に次ぎ旭川が一〇九・八%で第二位、益田の九九・七%に続いて北見が九五・四%で第四位にランクされ、帯広は全国平均を稍上廻る八九・〇%で第十六位であったが、岩見沢の七八・三%はラストの足利の七三・八%の一つ上位のプービーの成績であった。

一人平均購買額(除場外)は、四七、七五五円(前年対比九三・九%)で、三年目で五万円の大台を割ってしまった。

各場別一人平均購買額は
旭川 四六、五六九円(九四・八%)
帯広 四五、一八六円(九二・〇%)
北見 五二、九三二円(一〇〇・七%)

岩見沢四七、六五二円(八九・七%)で、北見だけは一〇〇%を確保し、特に最終回の十二月競馬は六万円を突破する

高額であった。

道営競馬との売上対比は、開催回数が四開催多い二十一回であったが、市営競馬発足三十一年目にして総売上が一二億七、八〇〇万円凌駕することができた。

道営競馬一日平均売得金を一〇〇として三場を比較すれば、

- 旭川 二一七・九%
- 帯広 一五八・一%
- 岩見沢 九四・六%

であり、旭川は初めて二〇〇%を突破したが、昨年やつと道営を超越した岩見沢が再び下廻ってしまった。

(入場人員)

本場入場人員は昭和五十五年度の五三万五千名をピークとして売上同様に四年連続低下の一途を辿る結果となったが、本年度は場外発売日数が増加した為、入場人員は前年対比一一四・九%と大巾な増員となった。

- 本場入場者 三六六、三三〇名
- 場外入場者 一八七、四六九名
- 合計 五五三、七九九名

で、本場入場者の減少はある程度予測はしていたが、一日平均前年比八〇・八%の低率であった。

各場の本場入場人員及び一日平均前年対比は

- 旭川 一一六、一四四名 九三・九%
- 帯広 九二、九〇七名 八七・〇%
- 北見 七五、七三三名 七四・〇%
- 岩見沢 八一、五四四名 七〇・一%

で、秋の岩見沢競馬は道営札幌競馬と全日程競合し、札幌のばんえいファンも道営に走った為か激減してしまつた。

男女別の本場入場人員とその比率は、
男性 三〇五、七六四名 八三・五%
女性 六〇、五六六名 一六・五%

で、女性の比率は55年の初調査時点で、一四・七%であったがその後年々微増年ら増え続け、本年度は前年対比〇・八%増の一六・五%になり、子供連や若いカップル等が目立つギャンブル場らしくない明るくばんえい競馬を、家族ぐるみで楽しんでもらつた。

場外の入場人員は、発売日数が二六三日に増加した関係上総数で一八七、四六九名と飛躍的に増加し、一日平均七二三名、最高は九月二十四日帯広場外の一、五八〇名、最低は十一月三日岩見沢場外の一六九名であった。

(場外馬券発売)

二年間のテストを経て、本年度は本格的相互場外の発売と、中央競馬会のご好意により中央競馬釧路サービスセンターを全国初のケースとして中央競馬の休催日に八月から借用することになり、七月までは一対一、八月からは一対三、十一月からの北見競馬は一対四の本格的場外発売明けの年となった。

場外発売日数は、

本場	場外発売場と発売日数				
	旭川	帯広	北見	岩見沢	釧路
旭川	18	18	24	24	12
帯広	18	35	30	24	17
北見	18	30	24	24	17
岩見沢	18	30	24	24	17
釧路	18	30	24	24	17
合計	60	53	78	24	263

で、昨年の帯広、北見両場の相互場外発売日数五七日を二〇六日上廻る二六三日を発売した。

各場毎の場外売得金と発売総額に対する比率は、

- 旭川 一二億五七九七万円 一八・九%
- 帯広 一二億三五〇四万円 二二・七%
- 北見 一九億六二八六万円 三二・九%
- 岩見沢 九億四七九九万円 一九・六%
- 合計 五四億〇三八八万円 二二・六%

で、総額の約八割は場外発売で専ら、特に北見は日数も多かったが約八割が場外売得金と言う高率であり、今後も各場共に中央競馬会並みに場外のウェイトは益々増加の傾向となるであろう。

場外発売所毎の売得金は、

- 旭川 一四億七、一七四万円
- 帯広 一三億七、四四〇万円
- 北見 一六億一、九九三万円
- 岩見沢 二億六、〇〇一万円
- 釧路 六億七、七七九万円

- 帯広 二、五九三万円
- 北見 二、〇七七万円
- 岩見沢 一、〇八三万円
- 釧路 一、四一二万円

で、予想外の好成績は、バス路線のない交通不便な旭川が好調であり、また、未知数の釧路場外が予算を四〇%以上上廻る好成績であったが、帯広は前年対比九五%と若干予想された数字であり、北見は前年比一〇〇日増の強行開催でファンも消息切れしてか七一・三%に留まり、岩見沢は入場者一日平均三〇五名と道営札幌の影響が強く表われ、予想をはるかに下廻る売上となった。

一人平均売得金額は、

- 旭川 三三、二一三元
- 帯広 二六、三四〇円
- 北見 三五、二六八円
- 岩見沢 三五、五七九円
- 釧路 一七、九五九円

で、前年対比は、帯広で一〇〇・一%の横ばい状況であるが、北見は八九・七%に下つた。

釧路については他場に比較して極端に低い様に見られるが、発売日数四八日間中道営競馬と同日発売日(道営一階、市営二階)が二八日間もあり、道営、市営の入場者区分の把握が困難(共通ファンが三〇、四〇%あるのではないかと)、不確実な入場者となっているが、単独発売日二〇日間の一人平均売得金は、帯広と稍同額の二六、三三三元であった。

入場人員は、

入場人員 一日平均

旭川 四四、三二一名 七三九名
帯広 五二、一七八名 九八四名
北見 四五、九三一名 五八九名
岩見沢 七、三〇八名 三〇五名
釧路 三七、七四一名 七八六名
合計 一八七、四六九名 七一三名

で、岩見沢は本年初の場外発売でPRが不足した為か極端に入場者が少く、また釧路は前述のとおり道営と競合日が二八日が含まれているので不確実であるが、単独発売日二〇日間の一日平均入場者は、五三六名であった。

釧路場外の中央、道営の成績を参考に記すれば、

中央競馬 五八日(土・日発売)
売得金 三二億二、五〇〇万円
一日平均 五、二一五万円
道営競馬 三九日(土・日以外発売)
売得金 四億九、七〇〇万円
一日平均 一、二七四万円
市営競馬 四八日(土・日以外発売)
売得金 六億七、八〇〇万円
一日平均 一、四二二万円

(競馬番組)

三年連続売上ダウン、ついにばんえい史上三〇年目にして赤字競馬場が出現した苦しい財政の中ではあるが、報償費の大巾削減は諸情勢から実施することができず、科学万博協賛競馬の一開催増を含め、総額において前年対比二千万円減の二二億八千万円を計上した。

出走延頭数 一二、六〇〇頭

出走回数 一、三三五競走
一競走平均 九・四頭
で、競馬番組の内容は、前年度に比較して大きな変更はみられなかった。

前年度二〇回分の報償費で、二一回を開催する苦しい番組編成となったが、看板レースの三大重賞競走は
七〇〇万円 農水大臣賞
六五〇万円 旭王冠賞
六〇〇万円 帯広記念

と、それぞれ据置かれたが、それ以下の競走は若干減額され

四五〇万円 岩見沢記念
四〇〇万円 旭シルバークップ
三〇〇万円以上 三レース
二五〇万円以上 七レース
二〇〇万円以上 一四レース
合計二九レースの重賞競走を実施した。

新設の特別競走は
三才牝馬岩見沢レディースカップ、釧路場外発売記念として帯広において釧路根室産駒三才特別、北見では科学万博協賛特別をそれぞれ実施した。

また、昨年から実施してきた雌馬優遇策に伴い、本年度も雌馬競走の充実を図り、雌馬のみの競走を、三才馬一九競走四才馬六競走まで増加した。

(出走馬)

出走申込頭数 一、三三五頭
出走実頭数 六九七頭
新馬登録頭数 七三一頭

で、前年対比は、申込二一頭減、実頭数三頭増、新馬一四頭減と大巾な変化はみられず横ばい状況であった。

年齢別出走実頭数は、
三才 二一〇頭 四才 一三〇頭
五才 一〇六頭 六才以上二五一頭
で、年齢構成はバランスの良くとれた頭数であった。

年間取得賞金額の最高馬は、一五戦四勝、岩見沢記念、農水大臣賞の二大ビッグレースを制覇した七才馬

ハイスピード号 一、六二四万円
が、昨年の覇者キンタロー号を二〇〇万円抑えて古馬No.1に輝いた。

一〇才の年齢制限で本年度で引退する馴染の深かったオープン馬ハヤホマレ号は、通算九、四七二万円で一億円馬誕生一歩前で引退、また、カイリキ号も通算七、九三四万円で引退することになり、共に明春から種雄馬として活躍することになった。

また、オープン馬のキタノフジ号は四月七日、ヤマトウンリユウ号は十月一日それぞれ痲痛で死亡したが、これからの活躍が期待されていた馬だけに非常に残念であり、厩舎関係者の飼養管理技術の向上を切に望むところである。

五才馬は、一五戦二勝、コブシ賞一着岩見沢記念、帯広記念、北見記念と三重賞競走は無念の二着に留まったが、

タカラタイトル号 九八五万円
が昨年の四才チャンピオンに引続き二年連続No.1を確保した。

四才馬は、十一戦四勝、ダービーと菊花賞の二冠に輝き、文月賞は二着で三冠を逸したが、

タカラフジ号 九九五万円
が第一位となった。

三才馬は、十三戦八勝、青雲賞、ホクレン賞に優勝、つつじ賞、ナナカマド賞は二着に終わったが

カネミフロンテア号 一、一〇五万円
が三才チャンピオンに輝いた。

一頭平均取得賞金額は
四才以上 一、七三三、四八六円
三才 一、三二二、四三八円

であり、前年対比、四才以上一五二、〇五五円減、三才四〇、〇二九円減の成績であった。

昨年度から実施している雌馬優遇策の結果、三才馬の雌馬は四一頭確保することができ、また一頭平均取得賞金額においては、

三才雄馬 一、二六一、七七二円
三才雌馬 一、五二一、二八〇円

で、雌馬は雄馬の二〇・六%増の成績となり、雌馬優遇の成果が表われた。

馬格は、昭和五十五年度までは急速な大型化の傾向で進んできたが、その後昭和五十八年度までは横ばい状況が続いたが、本年度は再び大型化され、秋の馬体重一頭平均は

三才 八七八kg(前年比10kg増)
四才以上九四九kg(前年比12kg増)

と、それぞればんえい史上最高の記録となり、一〇年前に比較すれば、約六〇kg

も体重が増加している。

三才最高一、〇二六kg最低七二三kg
四才以上一、一一六kg〜七九七kg

で、一トン以上は、三才二頭、四才以上
八六頭であり、この頭数も新記録となっ
た。

(騎手成績)

調教騎手 四九名(新規一名)

騎乗騎手 三四名(新規二名)

であったが、佐伯義則騎手は騎乗申込が
なかったため、実数は三三名となった。

調教騎手の成績は

取得賞金 谷内二三松六、一六四万円

勝利度数 谷内二三松 五三勝

勝率 山下正光 一四・七%

で、谷内調教師は連続二年第一位を確保
し、山下調教師は初受賞である。

騎乗騎手の成績は、

取得賞金 工藤正男 一億四六三万円

勝利度数 金山明彦 一一四勝

勝率 工藤正男 一五・七%

で、金山騎手は勝利度数で四年振りで工
藤騎手に二勝の差をつけて王座に返り咲
いた。また、木村騎手は自己最高の九八
勝をあげ、通算九八六勝で金山、山田両
騎手に続く千勝騎手の大記録に残すとこ
ろ十四勝まで追上げてきた。

新人騎手の林豊は三五勝、荒井幸夫は
二五勝と共に減量の△印がとれ、明年度
の活躍を期待するところである。

なお、十一月末日で、野々宮重樹、嘉
見次夫、藤田貞雄の三調教師が勇退され

たが、永年に亘りばんえい競馬発展のた
めにご尽力されたことを感謝すると共に
今後のご多幸を祈る次第であります。

(馬産対策)

道内の農用馬飼養頭数は、昭和五十五
年の一二、六九二頭が最低で、その後昭
和五十七年の一五、二二〇頭まで回復し
てきたが、五十八年、五十九年と再び減
少傾向が続き、本年度は前年対比六五三
頭減の一三、一六二頭となり、昭和五十
四年のレベルまで低下した。

種付頭数も前年対比七八五頭減の九、
三二二頭、生産頭数も前年対比一七六頭
減の六、一九二頭で共に減少してきた。

しかし、生産馬は量より質の時代に移
行しつつあり、本年度三才馬の一頭平均
馬体重量は前年対比一〇kg増の八七八kg
で、史上最高を記録し、また、三大馬産
地の十勝、釧路、網走以外の熱心な馬産
地での質の向上が目立ち、本年度三才馬
能力検査合格馬は、空知一四頭、上川一
二頭、宗谷七頭、石狩六頭とそれぞれ合
格頭数は最高を示した。

農用馬二才せり市場価格は、昭和五十
五年の一頭平均一八八万円をピークに三
年連続下落の一途をたどり、昨年はピー
ク時の四五%の五三万円まで暴落し、生
産者に与える影響は甚大なものがあつた
が、本年度は前年対比約一〇%増の五九
万円まで回復でき、見通しは明るくなっ
てきた。

「北海道鞍用馬振興対策協議会」は、

本会の事業補助金一五〇万円の援助を受
けて、本道初の「北海道優良種牝馬展示
会」を九月二七日帯広競馬場前の家畜共
進会場で開催された。

全道各地から約八〇頭の繁殖牝馬が可
愛い当才仔づれで集合、功労馬として二
〇才以上の一五頭が表彰されたが、二十
五才で一八産目の宝姫号と、二十四才で
一六産目の第二福栄号の多産記録も立派
だが、まだ若々しい体形で繁殖の現役を
つとめている姿には一驚した。

農水大臣賞競走三回制覇の名牝キヨヒ
メ号の母馬豊栄号(二九才)、ハヤカゼ号の
母馬鳴撫号(一二才)等々数ある名馬の
母馬とその産駒に接することができ、有
意義な展示会であった。

競走経歴のある種雄馬は年々増加の傾
向にあり、本年度初めて競走馬を登録し
た新種雄馬は二六頭にも及び、本年度の
三才能力検査合格馬二〇頭の過半数を
初めて越える一一六頭、に達し、農水
大臣賞馬のハクリユウ号を始め、ユウリ
キ号、ブルーキャッツ!!!号、エンガル
ボーイ号等、ファンに馳染の深かった往
年の名馬の産駒が続々と出走してきた。

昭和六〇年度に向って

全国の公営競技は、中央競馬を除きこ
こ数年軒並にダウンの傾向にあり、特に
地方競馬は前年対比九〇%を割る苦境に
立たされ、全国三二主催者の過半数は赤
字転落の憂慮すべき時代になった。

ばんえい競馬もこの雪崩現象に歯止め
をかけるべく、売上増対策としては、春
の開幕から本格的な場外発売の実施を計画
し(本場二対場外三)、道営札幌開催期間
の後半及び道営終了後の十一月は、一対
四のフル操業の場外発売を実施し、また
北見競馬においては薄暮競馬を六月の土
曜日三日間を計画している他に、帯広競
馬で科学万博協賛競馬を一回開催する予
定であります。

経営の合理化による開催経費の節減と
しては、執務員の定数減、従事員の配置
員数の大巾見直し、報償費の減額、一般
経費の減額等々節減できるものはギリギ
リの線まで切詰め、この苦境を乗り切る
所存であります。

昭和六〇年度の開催日程は、前例のな
い早春四月二〇日帯広競馬で開幕、二十
一回、一二六日を開催し、十一月二十七
日帯広競馬で終了の予定であります。が、
この不況を乗り切るために、公正競馬と
商品価値の高い競馬番組の提供を第一と
してファンの競馬放れに歯止めをかけ、
場外施設の改善、ファンサービス等を重
点に鋭意努力する決意であります。が、近
い将来に向って、光ファイバーの利用、
四場オンラインシステム、場外発売所の
新設等の検討を前向きに推進する予定で
ありますので、何卒よろしくご指導ご支援
を賜りますようお願い申し上げます。



マスコミ 取上げられた ばんえい

1、二月九日 NHK・ラジオ

AM六・五〇

五十八年暮からの冬は、全道各地とも雪が少なく、暖冬と思われたが、二月に入ると降りつづき、ここ旭川の競馬場は一〇七センチの雪に被われている。

NHK取材班は測上調教師を中心に、ばんえいを描く生放送。

前日は零下二十三度の厳しい寒さ、四月のテストでは出走馬の四分の一しか合格しない。その厳しさにそなえて雪中の調教は熱が入っている。「雪ではそりが滑りすぎるのではないですか」の質問に、タイヤの上に五百〜六百キロの重荷をのせて歯止めをかけ、一日三キロから四キロの調教だから、結構はげしい調教になる。力を競う「ばんえい」は、ちょうど人間の重量挙げのようなものですと説明する。人も馬もはげしい呼吸で、馬体は熱して汗がもうもうと立ちのぼる。

この冬の入厩馬は十四頭だが、他の三競馬場を合わせ二五〇頭が越冬しているという。その他の約五〇〇頭は郷里に帰って新馬と共に訓練されている。

馬の調教・手入・厩舎掃除・飼ば付けなど動物と暮す忙しさに休日はない。

2、二月九日 NHK・TV

PM七・三〇

「綱引き日本一置戸ばんば」

置戸で始まった人間ばんばは年々盛んになり、有名となり遂に全国的になった。

これは人のそり引き、綱引き競争だが、「ばん馬」と名をつけたところが面白い。

ここでは人間ばん馬の由来から、計画的な基礎訓練、チーム作り、レースの仕組み、用具などの説明がある。

北見工大の片岡教授は、置戸チームの強さを科学的に分析して説明する。

置戸からは一世と二世の二チームが出場する。石川アナは選手たち一人一人を紹介する。宮林署の岡部さんは五十六才で最年長、トラック運転手、酪農家、ピート栽培の農家、太鼓つくりの名人など。斉藤誠町長も大いに激励して赤いユニホームを贈り、過疎の町に何か、特徴ある魅力あるものを持たなければと語り、大いに奨励している。そして中央の綱引き決戦には、一世組が見事優勝する。

一世と二世のある限り置戸の人間ばん馬は天下無敵！

3、二月十二日 HBC・TV

PM一〇・三〇

HBC日曜夜のレギュラー番組「音楽の旅はるか」では、この番組の企画者団郁磨が独演で中国「万里の旅賛歌」を語る。

万里の長城は、紀元前二二〇年秦の始皇帝が工人と農民と白黒赤の馬を駆使して造築したものである。その椽点には関所があり、居場所は有名なシルクロードの出発点ともなった。八達嶺の峰にも多くの馬と駱駝が労働に従事した。今は収穫を祝って馬の踊りをやるが、それは日本の駒踊りに似ている。長城造築の苦難と壮大な遺跡を語る。

4、二月十七日 NHK・TV

AM八・〇〇

全国的な人気を呼んだ人間ばん馬の発祥は「ばんえい」と同じく北海道だが、この放送では陸別の「人間ばん馬」を取上げる。

雪のグラウンドに四八〇〇人の観衆が集まり選手は遠く本州からも参加したという。午前八時のニュースの中で報ずる陸別の「雪中人間ばん馬」



5、二月二十日 HBC・TV

PM一五・〇〇

人間ばん馬の第三弾は、HBCから作家寺内大吉氏の解説付きで「八十四年全日本綱引選手権大会」を放送する。

北海道からは、いわずと知れた置戸人間ばん馬の一、二世組が出場したが、二世組は残念ながら敗退する。

さすが五〇〇キロの丸太をそりに乗せて競う置戸の人間ばん馬で鍛え抜いた第一世組は、優勝戦で強敵秋田と対決し見事優勝。郷土置戸では、選手の奥さん方がテレビの前で感涙にむせぶ。この大会出場には、町から二百万円、カンパで二百万円が集まるという熱の入れ方だった。婦人組は、青森市天王町組が堂々の優勝で、主将を胴上げして、「よかった、よかった」と泣いて喜ぶ純情風景。

6、二月二十日 毎日新聞 朝刊
綱引き汗だよ人生は



綱引き汗だよ人生は

「それ、ヨイショ、ヨイショ」とかけ声も力強い「北海道綱引き選手権大会」(道綱引連盟主催)が十八日午前、札幌中島体育センター別館で開かれた。

大会には、道内各地の男女合わせて八十一チームが参加。昨年全国一となった置戸町の「人間ばん馬一世」は全国大会(来年二月)にシードされているとあって、この大会には出場しなかったが、代わりに二世、三世のチームが参加して、同町の綱引きに寄せる関心の高さをうかがわせた。

人間ばん馬から生れた綱引き競争に優勝したのは、男子では八雲の酪農チーム「八雲立岩イグルス」女子は新篠津村のママさんチーム「新篠津村ラッキーママさん」が三連勝、ともに全国大会に出場する。

7、三月二日 UHB・TV

PM二〇・五〇

道新テレビニュースは、音更の国立種畜牧場に鞍馬型のとねつ子八〇頭が誕生したことを報ずる。毎年この牧場出身の逸駿が、ばんえい競走で活躍することは有名である。

8、三月五日 NHK・TV

AM七・三〇

これは珍らしい「ヤンシュウばんば」北海道の人間ばん馬に似た岩手県岩手町の海岸にくりひろげる祭典奉納「ヤンシュウばん馬」には、二万人の市民が集まったという。五〇〇キロの荷を積みこんだ磯舟には、若者十人が乗りくみ、沖へ向け先陣を争う。この勇壮なヤンシュウばんばに観衆は湧く。

9、三月五日 NHK・TV

PM一八・〇〇

これはばん馬ではないが、国鉄職員のはほ笑ましい乗客サービスの話。

兎に角、超赤字で評判のよくない国鉄の職員が、馬の古蹄鉄を集めて壁かけを作り乗客に贈るという佳話は、馬黨の我々にはグツとくる。日高門別駅の職員は駅長以下四名、かねてから牧場の馬に洗蹄(蹄鉄をつけていない馬)が多いのを目をつけ、四人が牧場を廻つてすてた古蹄鉄を貰っていた。暇をみてはこれを加工する。加工場は古いコンテナで錆をとり磨き塗料をつけ、雑紙から切りとった馬の写真を貼りつけ日高門別駅に入れて出来上り。乗客に無料で贈った。乗客の皆さん、馬のふるさとへ来て下さいと画面から呼びかける。これが評判になり乗客は大よろこび。駅長の佐々木さんは「いいものができた」とこれ又大よろこび。

10、三月六日 NHK・TV

AM七・四〇

愛媛県今治市の新関裕さんの経営するポニー牧場に子馬が生れた。新関さんは、この牧場を子供たちとのふれあいに公園として提供している。新しい子馬の名はキラサギ号、この日も小学校生徒三十人が入場して、キラサギ号を間近に見て、その愛らしさに目を輝かせる。

11、三月十九日 NHK・ラジオ

AM七・〇〇

函館郊外で道産馬の牧場を経営する木村吉雄さんは何度もテレビ、ラジオなどで報道されている。

木村さんは、四十年間どさんこと共に

働き音楽を共にしてきた。とりわけ厳しい冬の仕事を共にした愛着はすてがたい。北海道開拓の功労馬「どさんこ」は今、全道に千頭位しかないが純粋の馬はごくわずかだ。滅りゆく功労馬「どさんこ」を木村さんは保存したいと思つてやまない。いま木村さんの牧場には百頭近いどさんこが放牧されている。

今年の冬は大雪できびしいが、馬達は大きなお腹をして強く生きています。木村さんは、仔馬の生まれるのを楽しみに春を待つ。

12、三月十二日 毎日新聞 朝刊

「お久しぶりね、人馬一体」

サロベツ原野 冬山造材で活躍中 冬山造材で切り倒された原木の搬出は、いま道内各地の森林で行われているが、サロベツ原野では姿を消して久しい屈強な馬が再登場し、人馬一体で活躍している。

この懐しい馬ソリ(パチパチという)の原木搬出が見られるのは、天塩管轄羅稚咲内砂丘林。利尻、礼文、サロベツ国立公園の中にあるトドマツを中心にした原生林。この一帯は特別保護地区と道天然記念物の指定を受けており、自然の生態系を壊さない配慮からの馬ソリの登場になったという。

いま雪原で汗を流しているのは六頭、この中には、道内各地で開かれるばんえい競馬で二百万円の賞金を稼いだ力持の馬もいて、一馬力以上の活躍ぶり。

ほかの馬もいまのうちにトレイニング



お久しふりね、人馬一体

レットの心臓は酸素を運ぶ赤血球の数は人間の二倍、農耕馬の一、五倍、このような違いがどのように疾走に影響するか、馬は騎手がいなくても競走するか。

ばん馬対サラブレットの遠さの秘密を探る。ばん馬との対決は乗馬の駆走レースではサラブレットの楽勝で、五百キロをせたそりの二百メートル競走では、ばん馬が悠々楽勝する。やはり力の差である。

16、五月二十日 毎日新聞 朝刊

「さよなら「馬車みこし」」

良馬少く事故防止に、今年から人力で、ひき役テスト。

札幌まつりのみこし渡御から馬が消えることになり、五月二十日午後三時から馬車に代わる「人車・テストが行われた。

この渡御には毎年二十四頭の馬が原動力だったが、五十七年リハールで馬が暴れ、死者を出す事故が発生し、農耕馬が姿を消すにつれ町中を平気で歩ける従順な馬を確保するのが難しくなってきた。汗だくでみこしを引くテストの青年に花見客も「苦勞さま」。

17、五月二十二日 NHK・TV

PM二二・一五

「特集・につぼん」で、北は北海道から南は沖縄まで、全国から十一箇所を選びその地方の名産名勝などを紹介する。

例えば京都の三千院、富士山の黒部峡谷、山形の最上川のような景勝地もあれば、岩手の逸品「笹錦」、山形の「鷹匠」などもあり、東京では原宿が出てくるという

ユニークなもの。
日本列島の最北端、北海道の代表は「どさんこ」が選ばれ、その全体像や素朴な顔が大写真にきかれて祝福を受ける。

18、六月二十七日 NHK・TV

AM七・五〇

NHK・TVのレギュラー番組北海道の窓は、「我等動物家族」を特集する。

北村の岡島さん夫妻は、根室の動物王国、船正憲さん夫妻は、大の動物好きで、広い牧場には約百種類の動物を飼っている。牛馬、犬猫は勿論、狐、雉、孔雀、きじ、あひる、鷺鳥、七面鳥などなど。あひるの子と狸の子はなぜか仲が良く、鷹さんを慕ってどこまでもついてくる。奥さんが外出するときなど、車からなかなか離れずいつまでも鳴いている。帰宅すると車を見付けてどこからともなく駆けつけ、可愛さは益々増すばかり。

広い牧場には農耕馬の親仔が約三十頭いる。息子さんは道営競馬の騎手でアラブ記念に優勝したこともあるという。正に動物一家だ。

19、七月二日 NHK・TV

PM二〇・〇〇

シルクロード第十六集は「駿馬の道はるか」

NHKのシルクロード特集は長かった中国、ソ連の旅を終り、トルコ地方に入る。砂漠と泥土の不毛地帯から、美しい緑野の展開する中ソ国境地帯をとり、この国々に入る。ここにもまた美しい緑に包まれた異国情緒豊かな森と野畑と街

を積み、ばんえい競馬に出場しようと人馬一体の迫力をみなぎらせる。

13、四月二十二日 NHK・TV

PM一八・五〇

昭和五十九年ばんえいの開幕は四月二十二日岩見沢から、この日NHK・TVはその第一目目にカメラを向ける。

五〇〇キロの重量物をのせた鉄ぞりをひいて、先頭を争うばんえい競走の仕組みを説明する。あいにくの曇天で春浅い岩見沢は、例年にくらべ七度も低い気温だが、入場者は前年より四〇〇人も多く、幸先は悪くない。今年は旭川、北見で場外馬券を発売し年間六十九億円の成績を見込んでいる。

14、五月十二日 NHK・TV

PM一九・一〇

夕刻のNHK・TVニュースは、今年の旭川ばんえい開幕第一日を放送する。

春前半戦の幕あけは五月中旬というのに気温は十二度のうら寒さ、入場者は三千人余と少ない。前年の売上げ不振にそなえ旭川市では、馬券の前売りなどいろいろな挽回策を講じている。

15、五月十四日 NHK・TV

PM七・三〇

人気番組NHKのウルトラアイ「サラブレット・速さの秘密」にばんえい馬と出場。

スタートでは、平静時一分あたり三十三回の心音は二百二十まで達する。サラブ



技で、棒にあたった騎士は、もんどり打って落馬する者もいる。

この騎馬戦で祭典は最高潮となり、終ると場内一杯に踊りまわる。

騎馬民族の街にはガソリンがなくなり車が動かなくなっても心配なく、馬がいて馬車があるからである。

20、七月六日 NHK・TV

AM七・五〇

朝のNHK・TVニュースは、オホーツクの海岸に近い北浜駅の機関誌「北浜の駅から」を発売したグループを紹介。

その創刊号には、オホーツクの潮風にうたれて、たくましく生きるどさんこ「芦毛の母と鹿毛の仔」のほほ笑ましい生活をのせている。

21、七月十四日 NHK・TV

PM二・三〇

道があり、古城や街並には一四一〇年前のアジア建築が残っている。住宅や石垣の壁には茶と青の色模様と双頭の鷲が栄光の象徴として描かれ、これは旗にもなっている。

街を走る二頭馬車は騎馬民族伝来の風物で、馬は軽種に近い体型をしている。

牛や羊の群が街中をチョパンニ（羊飼いに）追われて歩いていく、トルコ系の人達は西欧人の容貌をしている、職人横町に住む家族達の生活は原始的で素朴だ。

街中には騎馬の人が多く、祭典には旗を先頭に騎馬隊が集まり、街一杯に行進したのち街はずれの競馬場で馬の競技会に参加する。左右に分れた騎士が全速で走りよりジリット（棒）を投げ合う。馬をあやつり手練の棒を投げ合う勇壮な競

せ、自分も一杯やり、奥さんに「あんたは飲まんでいいよ」とにらまれる人も見える。

赤塗りの鉄ぞりに重量物をのせてスタートラインにつく。いよいよ競走だ。コースにはラインがなくオープンで障害は二つある。サツと赤旗がふられてスタート！ねじり鉢巻の騎手の手綱さばきに馬は躍動する。障害を登れず動かなくなった馬に三、四人の応援が駆けつけ、手綱を引つぱる、後ろから叩く、気合をかけるで、本場のレースなら失格ものだが、反則も、ものともせず勝ったのは「虎姫号」でこの馬は優勝戦にも勝ち、賞状と優勝旗を持って赤色満面、場内を一周する。

優勝の喜びを語る馬主の浜言葉が面白く、はるかに海が見える上の国村のばん馬競走。馬を出す人、賞を贈る人、貰う人、そのまた賞をつくる人を描く。

22、七月十六日 HBC・TV

PM二・三〇

HBC日曜夜のレギュラー番組、音楽の旅はるか「ロマンと伝説の島濟州島」韓国領の濟州島は日本に近く九州や沖縄の民謡にも影響を与え、民謡と民話の宝庫といわれる。女優神崎愛がロマンと伝説を求めてこの島を訪ねる。

有名な濟州馬はどさんこに似た東洋型の馬で、奇岩に富む海岸に三々伍々たむろして姿を見せる。それが低い家根の村落によくマッチして濟州島の風物となっている。

濟州島は一五〇〇万の島民が住む島で、馬は住時から農耕や運搬に大きな稼ぎ手となっている。

23、七月二十八日 NHK・TV

AM七・三〇

NHK・TV朝のニュースの中で、ドイツの村落の美しいたのしい祭典を見せてくれる。これはテイトラウエル村の年に一度の酪農民のお祭りである。バイエルン氏も朝早くから二頭の馬をシャンプーで洗い、美しい馬具で飾りつける。馬はハプリング種で背が低く胸幅広い鞍馬型、体高は一五〇センチ位である。車の発達した今日でも馬は必要で、馬車やプラオを引き作業や乗馬にも使っている。傾斜の多い山岳地帯で馬は重宝がられている。



同じ酪農家のイニシャル氏も早朝から家族みんなで準備に忙しい。氏も奥さんも娘さんも民族衣装をつける。男は皮のズボンをはき、女性は長靴である。馬の首には大きなホースベルが吊され、これを鳴らしながら祭典に出かける。

青空は広く絶好の祭典日和、山高帽の少年達に「今日の楽しみはナニ」と聞くと、馬に乗ること、ビールを飲むことだと答える。二頭引きの馬車は二〇キロ四方の村落から四百頭も乗る。集会場所は村はずれの美しい古典的な教会である。

教会の壁と天井には馬を入れた大壁画が描かれ、馬車群は教会の周囲を三回廻るといふ宗教的習慣がある。

馬車には十人以上の大人子供が乗る。土産屋がビッシリ立ち並ぶ中で、男も女もリットル入りの大カップでビールを飲む。

24、七月三十日 NHK・TV

PM二二・〇〇

中国の秘境。チベットにそびえる姑娘山(クローニャンザン)は薬草の宝庫といわれ、チベット族の伝説の山ともなっている。

NHK取材班は標高四五〇〇米の姑娘山を目指して、漢方医薬の王といわれ、関節炎、その他万度に効くという「大黃」を探究する。

探訪への旅になくはならないのはその地方の馬である。チベットの馬の相貌はどさんこに似ているが、よく太り、肢は短かく粗野である。

出発基地になった村は四〇〇米級の山々に囲まれた高地にあり、村長さんが見送ってくれる。このあたりの高山は二〇〇峰もあり正に秀峰の国である。

村には石造りの寺院があり祈禱文を書いた布と数本の旗が立っている。道なき丈岩壁の斜面を馬群は登っていく。道が険しくなると馬は牛に交代する。

一苦心の未取材班は四姑娘山六二五〇米に到達し、斜面の林に分け入ってこぶし大の球根をつけた大黄に出あう。

25、八月二日 毎日新聞 朝刊

この日午四時すぎ、美深町の直線道路で、オガクズ運搬の馬車に大型トレーラーが追突して、馬車に乗っていた松久金作さん(73)を馬車ごととはね飛ばし、松久さんも馬も即死したという。これはトレーラーの運転手、村里賢二(29)の居眠り運転と判明。何とも痛ましい限り。馬車時代、こんな事故は皆無だった。

26、八月十三日 NHK・TV

AM八・一〇

英国プリストルロンドン間を走る四頭立の郵便馬車を紹介する。この行程を一昼夜で走る古風な郵便馬車は、年に一度昔を偲ぶ行事として行なわれるお祭りである。英国の草原を走る白馬は見事な重半血馬、馬車は美しい。しかし駆者のパーカーさんはもうこりごりだとこぼす。

27、八月三十一日 NHK・TV

AM七・四〇

老岐への船が島に近づくと、島に放たれた黒牛がモウモウと呼び歓迎する。住

時から有名な「老岐のまき馬」は、林や原野を何区画にも区切り草生を見て、順次放牧地をかえていく方法である。

この日は「まき馬」を見せるほか、種付のため本州に渡る八頭の黒牛が海岸から泳いで船にだどりつく珍しい風習を見せる。

28、九月八日 HTB・TV

PM一五・〇〇

第三回旭川ばんえい五日目の重賞レース「HTB杯」と「キャビン杯」の実況放送を中心に、ばんえいを描く一時間番組。

先ずキャビン杯は出走馬九頭、第二障害では三番目にこえた一番、シゲノダンサが見事に優勝。HTB杯はオーブン馬七頭で熱戦を演ずるが四番のハヤホマレ

が獲得した。

前年不振だった旭川ばんえいは、挽回策として、市は色々な対策をたてた。

旭川市の矢田事業係長の談話によれば、そのひとつに宇宙船スペースシャトルと同じ格好をした「ばんえいシャトル号」がある。一回二十人乗りの観光馬車は、

無料で一周する。その上記念パッチもくれるというので子供に大好評、押すな押すな行列ができる始末。

またアトラクションとして少年の騎乗体験レースがある。そりには(騎手)が同乗して手綱さばきを指導する。乗馬サービスはよくあるが、そりの騎乗体験は珍らしい。十五、十六日は、ばんえい祭りを計画してとうきびを配付するという

力のいれようで、明年も新しいイベントを用意して多数の来場を期待したいという。カメラは更にはばんえい騎手のホープとして、木村卓司騎手、金山明彦騎手若手の西弘美騎手にインタビューする。

29、九月九日 HBC・TV

PM一八・三〇

ふたたびHBC・TVはチベットの秘境を行く馬の隊列を見せる「未踏の記録チベット断断」

秘められた聖地カイラスで生活する仏教徒と遊牧民たちに見送られて、ヤクの背に荷(塩)を満載して山道をいく。隊列には多くの乗馬が加っている。この地方の住民は羊毛と塩を売って生計をたてている者が多く、農牧民は不毛の地に水をひいて裸麦を栽培している。収穫時に



はそれを大籠に入れて運び公易市場に出す。

一ネパール人の羊毛刈りは一頭二角を支払わなければならなく、刈った頭数のことで精算のときよく揉めるといふ。ヤクは臍猛なツラがまえに似ず鳥のような声だ。馬は粗野で力強く人や木材を運び、隊列を組んで従順である。よく働く動物達の身体はしなやかで、聖なるカイラス山を黙々として行く。

30、九月十六日 HBC・TV

AM九・〇〇

兼高かおるの世界旅行はこの日南洋に浮かぶ孤島「タナ島」をレポートする。

この島は一一八〇〇平方キロもあるが、農地はその十分の一しかなく、まだまだ開発できる。そこには六百頭の野生馬がいるが、人間を怖れずに近づいても逃げずに、むしろ寄ってくるほどである。

これを捕えて馴らし乗馬にすることはできるが、狩猟することは禁じられている。なかなか品のいい軽乗馬型で、おそらく以前この島に放した洋種馬が繁殖したものらしい。狩りを許されているのは野生の鶏と豚に限られている。緑の野、丘、小高い山、海は南洋特有の美しさがある。

31、九月二十日 NHK・TV

PM二〇・四〇

NHK・TVの特集「名曲アルバム」は既に三百曲にも及ぶ佳作番組だが、曲の背景にはいつも美しい風景が映し出され、その中に馬がひとつの点景となつて

いることも少なくない。

この日はどさんこに似たアイルランドの野馬を見せながらロンドンデリー（樅の木）の歌をきかせる。

美しい街の景観にとけこむような馬の群れ、緑野と川と海、人口約六万、城壁のある街に聖エルム教会堂があり、河畔に黒鹿毛、芦毛の農馬が草をはむ、農馬は世界中いたるところ健在だ。

32、九月二十五日 HBC・TV

PM一〇・〇〇

「人間ばん馬」置戸町の力

HBC水曜日のレギュラー番組「そこが知りたい」はこの日「男たちの祭り」置戸」をとりあげる。

道東の置戸町は、面積の八割が森林で占められる林業中心の町、木材不況の長期化で過疎化が進み、人口も最盛期の半分に落ちこんでいる。しかし一方綱引き日本一という力自慢の町、木工芸の「オケクラフト」という文化を育むユニークな町としても知られる。そして最大の呼びものか、夏祭りに行なわれる「人間ばん馬」である。かつて木材の搬出に馬が活躍していたが、人間ばん馬は、当時からしつと馬にかわって人間が丸太を引く力の競技で、毎年置戸の男たちは、競つて数百キロもの丸太に挑む。

今年の夏、初めて「人間ばん馬」競技に出場する柏原勝さん（25才）を通じて置戸町の「力」の源を探る。

解説者荻昌弘氏は現代の世相の中での「人間ばん馬」のあり方と人と、その源

流となった「ばん馬競走」を礼讃する。

33、十一月十二日 NHK・TV

AM七・五〇

昭和五十九年度のばんえい競走最終は北見の十一月三日から十二月十八日に至る四開催となった。

市中心街から約七キロ、若松の丘陵にある競馬場には重ばん馬六三四頭が入厩、約三〇〇人の調教師、騎手、厩務員とその家族が入居している。これだけの人馬が四ヶ所の競馬場を競馬日程に合せて移動する。あたかも民族の大移動にも似た壮観である。

のレースは十時四十五分から始まり、それにそなえて冬の調教はきびしい。

34、十一月十七日 NHK・TV

AM七・五〇

本年最終の北見ばんえいは十二月開催とあって市では二三〇〇万円を投じて投票所を透明シャッターで囲い寒気を防いだ。そんな努力もあって最終四回の売上は悪くない。熱いうどんをすすりながら、張りきる元気な婦人の映像は印象的、初冬の北見ばんえいは十一月二十八日朝のニュースでも取り上げられた。

35、十一月二十六日 NHK・TV

PM二〇・三〇

函館近郊の山野に群れる半ば野生化したどさんこを紹介する。山峰デレクターは馬にまたがってみせるが、鞍なしのいわゆる裸馬「なんとなく自然のぬくもりを感じる」と至極満悦だったが、駈け出されて落馬は残念。

36、十一月三十日 NHK・TV

AM八・一〇

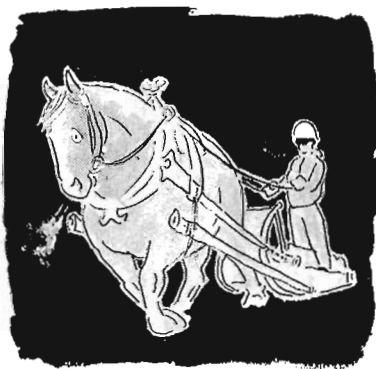
またも冬の北見ばんえいが取上げられたがこの日は全国放送。北見の十二月競馬は常識はずれと思われるほどだ。果して市の思惑どおりの好天と成績があげられるかどうか。

カメラはファンに向けられる「儲かれば寒さも忘れるが、とられればひどくこたえる」と正直で市の台所には無頓着。

37、十一月三十日 NHK・TV

PM一八・一五

音更の国立種畜牧場の放牧場は、半年

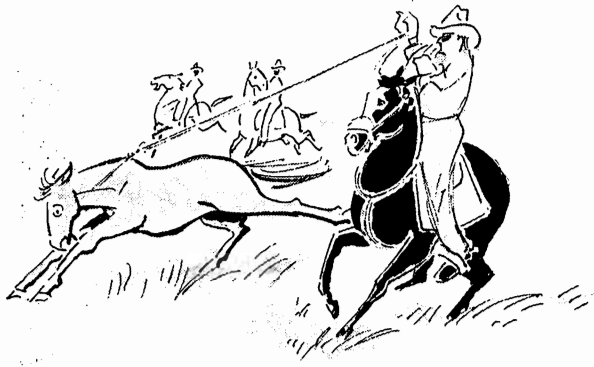


毎朝四時から調教が始まり、この季節の夜明けは六時半頃だから暗闇の中の調教といえる。ゆるい斜面の中に土堤を設けた広い調教場をぐるぐる回る。開催日

の放牧期間を終って厩舎に収容される。乗馬の牧場職員に追われて土煙をあげて駆けてくる一三頭の重ばん馬はいつもながらの牡観だ。冬を越し明年再度放牧される。秋には体重一屯位になつてゐるという。

38、十二月三日 NHK・TV
PM一八・三五

NHKニュースはこの日冬の北見ばんえいを午後六時と七時の二度取上げる。本年最終北見の初日は雪がちらつく寒さだったが一億五千万円を売上げ先ず先の好成績、市ではこの競馬で十億十



二億円の売上げを見込んでいるが果して胸算どおりにいくかどうか。雪は馬にとつてはラクだろうが。

39、十二月二十日 HBC・TV
PM二〇・〇〇

HBC夜の人気クイズ番組「世界まるごとハウマッチ」では珍らしくアメリカ「ユタの野生馬」を取上げる。

ユタ州の野生馬は西部の牧場から逃げ出した馬が自然繁殖したものらしく、現在二千頭を数えるという。毎年これを捕獲して希望者に売却する。但し一人四頭以内に制限されている。よく西部劇に出てくるような精悍な馬で、サラ四頭分の価格は如何というのが問題。

回答者六人中一番近いのが四〇〇ドルだったが事実は五〇〇ドルと安い。
40、十二月二十三日 HBC・TV
PM一八・〇〇

ひと頃の競馬ブームも今は夢か。競馬はここ数年売上げ減がつづき、中央競馬もマイナスの競馬場がふえ、全国平均で漸やく保合となつている。

地方競馬はお先きまつくとTBS系TVは全国の地方競馬場から十カ所を選び、競馬通の作家寺内大吉氏に探訪して貰う。南は宮崎県の中津競馬で、その日の観客は千人たらずで予想屋さんも二三人、場内は閑散として淋しい。その他選ばれたのは、荒尾、益田、高知、名古屋、川崎、高崎、水沢、盛岡と北海道は北見ばんえいの十カ所、それに日高の前川牧場を取材する。競馬の赤字は牧場

経営にも大きな影響を与えて、一牧場平均約二八〇〇円の負債があるといわれる。岩手県の二競馬場は相当な積立金を持つており、競馬会計としては赤字になつていないという。各競馬場ともかつてな

農用種雄馬(ばんえい)の購買と配置

地方競馬全国協会の補助に係るばんえい競走馬からの種雄馬購買は、十二月十二日北見競馬場で実施した。当初ばんえい競走馬から種雄馬として売却を希望するものが三頭あり、予備選抜で購買対

い企業努力をしており、何とか地方競馬場の伝統を守つてほしいと結んでいる。その他、道営競馬や大井競馬の不振とその対策が新聞紙上にのつている。

象馬を二頭にしぼり精液検査を実施した。購買当日は、対象馬一四頭のうち精液検査不合格の二頭と、購買を辞退した一頭を除く一頭の出場馬を入念に検査し購買馬を選定した。購買馬ならびに配置先は次のとおりである。

昭和59年度農用種雄馬(ばんえい馬)購買名簿

配置番号 登録番号	馬名 (旧馬名)	品 種 毛 色	生年月日 産地	父 母 血統	体高cm 胸囲cm 管囲cm 体重kg	購買価格 配置先
会59-5 S-604	キタノサブロー (嶺 雪)	半血(鞍) 黒 鹿	昭50.4.8 網走市	ベル 二世ロッシーニ 重 半 初 花	166 225 27.0 916	500万円 釧路農協連
会59-6 S-610	イチホウォー (春 駒)	半血(鞍) 青	昭53.3.25 足寄町	ベル ボルール 半 血 光 栄	171 247 26.0 1,084	500万円 釧路農協連
会59-7 S-602	ドラゴンダッシュ (ジャンボ熱)	半血(鞍) 柄 栗	昭50.3.28 音更町	重 半 晏 栄 中 半 玉 錦	163 225 27.5 853	500万円 根室生産農協連
会59-8 S-608	キンカホウ (清 松)	ベル系 黒 鹿	昭51.4.25 津別町	ベル 二世ロッシーニ 重 半 松 の 四	168 236 26.0 999	500万円 十勝農協連
会59-9 S-607	ホッカイオー (都 栄)	ベル系 青	昭50.5.30 幕別町	ベル 久 都 ベル系 栄 桜	167 228 28.5 953	450万円 十勝農協連
会59-10 S-606	アサヒホマレ (力 丸)	半血(鞍) 青	昭50.5.6 阿寒町	ベル 二世ロッシーニ 重 系 大 桜	171 234 26.0 980	450万円 日高生産農協連
会59-11 S-609	カミタカラ (第二相栄)	半血(鞍) 柄 栗	昭52.4.27 足寄町	中 半 ナオス雄 半 血 相 栄	169 224 29.0 916	450万円 ホクレン北見支所
会59-12 S-605	カワアラシ (千 日)	半血(鞍) 青	昭50.4.22 日高町	ベル 産 日 重 系 月 姫	165 242 26.0 984	580万円 ホクレン倶知安支所
会59-13 S-603	キングテンリュウ (鉄 力)	アル系 鹿	昭50.4.28 池田町	アル 鉄 鯉 重 半 恵 雲	167 228 26.5 948	570万円 ホクレン函館支所

場外発売について

北海道市営競馬協議会

投票課長 室田武司

本年度よりファンサービスの充実並びに昭和

五十五年度をピークに下降線をたどっている発売額の歯止策として、四競馬場相互場外及び釧路場外発売を実施した。

本会職員としては、昭和五十七年、昭和五十八年と一対一の場外発売は経済済であるが、八月よりの帯広競馬の一対三、最終北見競馬での一対四という、おそらく地方競馬初の事業に対して不安をいだいて実施したが、各職員の努力により好成績で終了した。

本場電算室の設備としては、場外発売票数入力用として旭川競馬場・帯広競馬場はP・D・P（管理用端末）とカード併用、北見競馬場・岩見沢競馬場はキーセッターを使用、発売票数・払戻金等の連絡はファクシミリにより送付・緊急連絡事項等のために対場外数の電話を設置し

対応した。

各場外発売所別に発売成績を見ると旭川場外六十日（帯広競馬十八日、北見競馬二十四日、岩見沢競馬十八日）十四億七、二〇八万円、一日平均二、四五三万円、帯広場外五十三日（旭川競馬十八日・北見競馬三十五日）十三億七、五一五万円、一日平均二、五九四万円北見場外七十八日（旭川競馬三十日、帯広競馬三十日、岩見沢競馬十八日）十六億二、一五三万円、一日平均二、〇七八万円、岩見沢場外二十四日（北見競馬二十四日）二億六、〇〇一万円、一日平均一、〇八三万円、釧路場外四十八日（旭川競馬八日・帯広競馬十一日・北見競馬十七日、岩見沢競馬十二日）六億七、八〇五万円、一日平均一、四一二万円であった。

場外発売比率としては、場外発売所が三場以

上となった後半開催の率をみると二十五％―四十二％で、第三回北見競馬で一日の対比五十四％という日があった。

なおこの相互場外発売を実施した事により本場への入場者が減少したが場外入場者数を加えると四競馬場とも前年度を上廻る（一〇〇・九％―一二五・四％）成績を上げている。

次に全国初の中央・地方の相乗り場外発売の釧路場外発売所は市営・道営とも中央競馬開催日を除く八月六日より十二月十一日までの四十八日間（道営は八月一日より十一月一日までの三十九日間）行った。

発売方法としては一階を道営競馬、二階を市営競馬とに分け、放送、立て看板、窓札等によりファンに周知させた為特別な混乱もなくスムーズにスタートを切る事が出来た。

従事員募集については、六月十九日地元を含む新聞社二社において八三、〇〇〇枚のチラシ広告を行なったが、その当日より電話での問い合わせが殺到し、およそ三〇〇〇件以上に達した。又二日間実施した従事員採用の面接でも、採用者数市営五十三名、道営六十名程度に対して応募者は六五〇名も来て、場外発売所の二階客溜りは大変であった。

成績は別表の通り一日平均一、四一二万円と

当初予定していた一、〇〇〇万円の目標を越え月別においても九月発売した旭川競馬分が一番発売額が高く一日平均一、六〇〇万円であった。市営・道営との単独発売と同時に発売日の発売額を比較すると市営は、単独、同時いずれも一日平均一、四一〇万円と平均しているが、道営の場合は単独時一、六〇〇万円に対し同時発売日は一、一四〇万円と若干下廻っている。

ファンの動向としては市営ファン、道営ファンに関係なく双方購入しているのが見受けられる。広報については、ポスター、ラジオ、立て看板の外・中央発売日にはカレンダーマッチ、日程表などの配付をキャラバン隊などによりPR活動に務めた結果このように昭和五十九年度初の釧路場外は目標を達成することが出来た。

本年四競馬場相互場外及び釧路場外発売を実施した結果今後の課題としては、場外発売締め切りを本場と同時締め切り、光ファイバーによる映像伝送等ファンサービスの充実を図りなお且つ一五〇万都市札幌圏に場外発売所を設け新規ばんえいファンの拡大を図り、この不振から脱出したいものである。

場 外 発 売 所 施 設

	旭川競馬場場外	帯広競馬場場外	北見競馬場場外	岩見沢競馬場場外	釧路場外
投票券発売窓口数	単・複・連・計 2 2 42 46	単・複・連・計 1 1 38 40	単・複・連・計 2 2 34 38	単・複・連・計 1 ・2 27 30	単・複・連・計 全 1 ~10
払戻金交付窓口数	1 15 16	1 1 15 17	1 1 12 14	1 1 11 13	同 上 2
ファクシミリ回線	2回線 発売票数・払戻金等の連絡用				
直通電話回線	1回線 事務連絡用				
発売レース数	全 レース				
発売開始時刻	午前10時より全レース前売り				
発売締め切り時刻	当該レース発走時刻の28分前				当該レース発走時刻の17分前
放送等	実況放送(オッズ表示せず)馬体重・払戻金等テレビ表示				実況放送(オッズ表示せず)馬体重・払戻金等場内表示

場 外 発 売 金 額

場外名	本場名	日数	発売金額	1日平均 1 日 平 均 発 売 金 額	入場人員	1日平均 1 日 平 均 入 場 人 員	駐車台数
旭川競馬場	帯広競馬	18日	411,168,000円	22,842,667円	11,116人	618人	6,948台
	北見競馬	24	628,091,100	26,170,463	18,025	751	10,463
	岩見沢競馬	18	432,822,000	24,170,463	15,170	843	9,167
	計	60	1,472,081,100	24,534,685	44,311	739	26,578
帯広競馬場	旭川競馬	18	528,958,800	29,386,600	19,882	1,105	6,061
	北見競馬	35	846,195,100	24,177,003	32,296	923	9,406
	計	53	1,375,153,900	25,946,300	52,178	984	15,467
北見競馬場	旭川競馬	30	601,209,600	20,040,320	16,599	553	13,771
	帯広競馬	30	672,192,500	22,406,417	19,683	656	14,509
	岩見沢競馬	18	348,135,600	19,340,867	9,649	536	8,195
	計	78	1,621,537,700	20,788,945	45,931	589	36,475
岩見沢競馬場	北見競馬	24	260,013,300	10,833,888	7,308	305	4,449
	計	24	260,013,300	10,833,888	7,308	305	4,449
釧路場外	旭川競馬	8	129,022,400	16,127,800	7,891	986	4,127
	帯広競馬	11	152,759,800	13,887,255	10,284	935	5,043
	北見競馬	17	228,625,600	13,448,565	8,672	510	5,235
	岩見沢競馬	12	167,643,000	13,970,250	10,894	908	5,839
	計	48	678,050,800	14,126,058	37,741	786	20,244
釧路場外	北海道	39	497,027,400	12,744,292	25,101	644	13,962
	中央競馬会	58	3,024,916,300	52,153,729	117,810	2,031	71,367

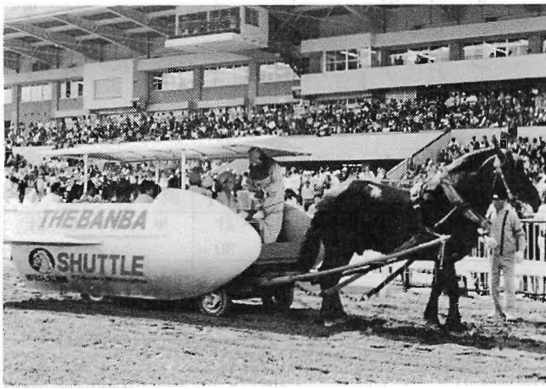
昭和59年度

業 事 報 告

昭和五十五年度をピークに下降線をたどっている売得金額に歯止めを掛け、また新規ファンの獲得のため四主催市それぞれ趣向をこらし、ファンサービスデーの実施、各種イベントの実施とばんえい競走の広報活動を実施いたしました。昭和五十九年度の広報活動実施状況を紹介します。

◎旭川市

今年度の市営競馬は、五月十二日から六月五日まで二開催、九月一日から九月二十五日までの三開催実施し、ファンサービスの目玉は、九月八日ばんえい競馬生中継（一時間番組）H T B局により土曜午後三時～四時までで、重賞レース「H T B杯」と「キャンピング杯」の二レースの実況放送を行なった。番組では馬の一日、



ばんばシャトル号



もちつき大会

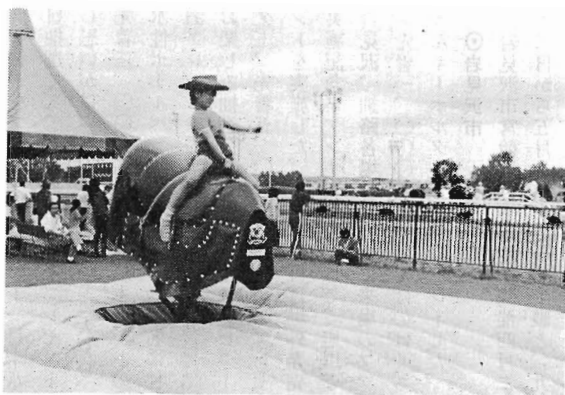


第1回ばんばまつり

ばんえい競馬のルール等を盛込んだ大衆番組でばんえい競走唯一の生中継であった。九月十五日十六日は「ばんばまつり」を場内で実施し、H B Cラジオ公開生放送、超電子バイオマンショー、もちつき大会、緑日店、ばんばシャトル号の遊覧走行等の催しが行なわれた。緑日店では、やき鳥、おでん、とうもろこし、地元野菜類の特売が行なわれ大変な人出であった。チビツ子には「ばんばシャトル号」の遊覧走行が大変な人気を呼び、平地走路一、三〇〇メートル一周の遊覧で記念のキーホルダーをおみやげに貰って大喜びの一日でした。

◎帯広市

今年度の帯広市営競馬は、夏場の連続五開催の実施でファン感謝デーとしましては、七月十五日エアラインTシャツプレゼントとしまして入場者にスピードクジにより一〇〇名、八月五日アクセサリー鉛筆と貯金箱プレゼント（子供先着一〇〇〇名）八月十五日ラジオカセットプレゼント（スピードクジで十五名）など、各種イベントも多種多様で、七月二十一日～二十四日までは、サンセット・フェスティバルと銘打って、初の薄暮レース実施に伴ないH B Cラジオ公開録音を実施して、歌手の麻丘めぐみさん、内藤やす子さん、清水由貴子さん、地元のロックグループでカーディナルロックンロールバンドによる歌謡ステージを実施し、多数のファンが来場した。二十四日のフェスティバル最終日は、ロデオマン

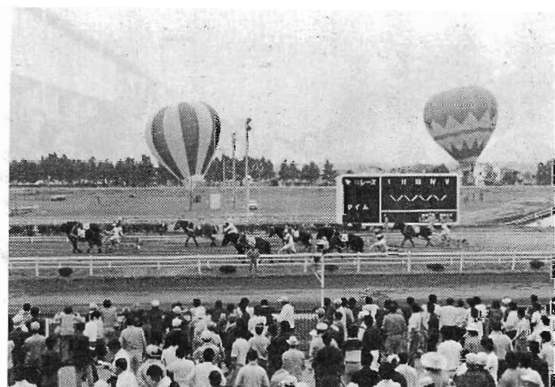


ロデオ大会



サンセットフェスティバル

ンによる大ロデオ大会で子供も大人もマ
 シンに跨がり「ワーワー、キャーキャー」
 と大騒ぎで、最後にドスン、楽しい一日
 でした。八月十六日、第四回五日目に実
 施した帯広大賞典レースは、ファンによ
 る人気投票レースで、その日投票して下
 さったファンの中からポケットテレビ十
 台自転車十台が抽選により送られた。八
 月二十六日は熱気球二基による試乗体
 験、先着順に乗せてもらった女性や子供
 達はしばしの空中遊泳に大喜びだった。
 その他、コンパニオンの配置、総合案内
 所の設置、七月八日、十五日はバス一台
 (四十五名) による釧路市よりバスツア
 ーの実施、毎日曜日はレディスデーとし
 て先着三〇〇名の女性にエアラインハ
 ンカチアプレゼント等実施した。



熱気球で空の旅

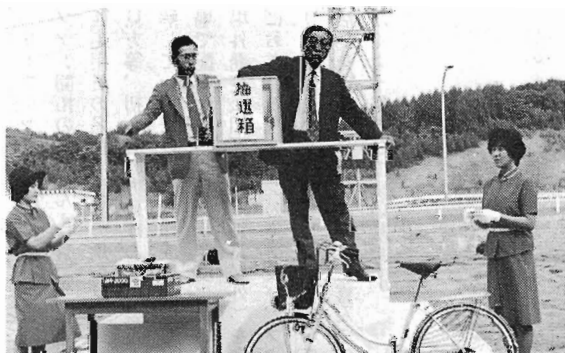


ノベルティーの配当

◎北見市
 今年度の北見市営競馬は、六月十日か
 ら七月二日までの前半二開催、後半戦は
 十一月三日から十二月十一日まで四開催
 計六開催で、初の節走競馬となり、北国
 の厳しい寒さの中大勢のファンが来場し
 て下さいました。ファンサービスとして
 六月十七日お楽しみ抽選会を実施し、自
 転車十五台、電磁調理器十五台、粗品進
 呈先着二、五〇〇名に特大瓜切りブレゼ
 ントを送った。自転車が当たったファンは
 大喜びで場内を乗り廻していた。十一月
 四日は、昭和四十九年に現若松町に競馬
 場が移転して本年度で十周年を記念して、
 競馬場移転十周年記念ファンサービスとし
 て先着三、〇〇〇名に記念煙草、記念



抽選会豪華賞品



お楽しみ抽選会

ライターをプレゼントした。十一月十八日抽選で二〇〇本の新巻鮭をプレゼントし思いがけぬ秋の味プレゼントに大喜び、先着三、〇〇〇名に赤、黒二本セットの水性ボールペン、先着五、〇〇〇名に甘酒プレゼントを実施した。十二月九日は、お楽しみ抽選会でパーソナルコンピュータ、先着五、〇〇〇名に甘酒のプレゼントを実施した。十一月三日は場外発売実施記念ファンサービスとして、旭川、岩見沢、釧路各場外発売所に来場のファン先着一、〇〇〇名に「ばんばのぼくちやんキーホルダー」をプレゼントした。

◎岩見沢市

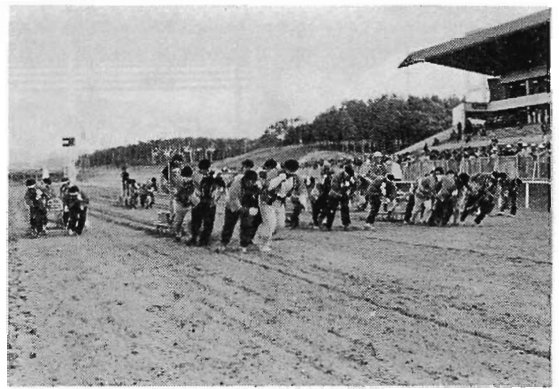
岩見沢市営競馬は本年度初開催四月二十二日から五月八日までの前半戦と、九月三十日から十月二十九日までの計五回開催された。ファン感謝デーとして、五月五日子供の日には、チビッコに大変人気のある「ガンダムショー」、毎日曜日は、スピードガンによる速球の測定、ポニー乗馬サービス、各種ノベルティの配布(マッチ、絵ハガキ、ガンバ君バッチ、タバコ、ポケットカイロ、ティッシュ、マスクト人形)、十月十日はハンマーコングの実施等ファンサービスを行なった。イベントとしては、十月七日ばんばい婦人教室を開講し、約二六〇名の女性を受講され、本会事務局長によるばんばい雑学を真剣に聞き入り、ばんばい競走をご理解いただいた。十月十日は、ファン人気投票により出走馬を決定する第六回ポプラ賞競走を実施した。人気No.1は五才



ガンダムショー



ばんばい婦人教室



人間ばんば大会

従来通り、本会会報の発行及び配布、ばんばいカレンダーの作製、日程表及び招待券の作製は基より、今年度初のテレビスポットの放映、野立看板の設置、ラジオスポット、イメージポスターの作成、リーフレットの作成等を実施した。

テレビスポットの放映についてはTV局二局により、十五秒スポットを四月より最終競馬終了時まで延べ、二一六回を放映し開催告知の徹底を計った。

ラジオスポット及び野立看板の設置については、今年度より釧路場外発売場の開設に伴い、ラジオスポットは十秒物で釧路ローカル延べ四四六本、野立看板は釧路場外発売場に至る主要道路に二ヶ所設置、釧路駅前金市館デパートの外壁看板の設置と開催告知を図った。

リーフレットの作成については、新規ファン開拓の為ばんばい競走のルール、競走用具の名称、世界の馬の話、競走の見方等、初心者の方にはばんばい競走を理解していただけるよう作成に配慮し、各場で配布した。昭和六十年においても場外発売(相互場外、釧路場外)を急頭におき、新規ファンの獲得及び、ファミリーばんばいを目標として、幅広い広報活動を実施しファンの方々喜んでいただくよう努力してまいります。

馬ヤワラ号(二九〇四票)、しかし競走ではファンの人気に答えられずに五着に終わった。十月二十一日は昨年度より実施している人間ばんば大会の決勝戦が行なわれた。十月十日、十四日の予選を勝ち抜いた精鋭八チームの出場で、一チームは七人(一人騎手で六人が引手)で三三〇キロの鉄製ソリを直線一〇〇mで競い合い岩見沢市農業協同組合の「ともひかり」チームが二年連続の栄光の優勝を果した。その日は朝から各チームの応援団が幟を振り、太鼓をドンドン打ち鳴らして大変なぎわいを見せていた。

◎北海道市営競馬協議会

昭和五十九年度における本会広報活動は、四主催市相互場外発売及び釧路場外発売を重点目標に考え実施した。

ばんえい便り

1 競馬監督

農林水産省畜産局競馬監督課から、ばんえい競走の監督に左記の日程でご来場になり、熱心な監督とご指導を戴いた。

- 5月12・13日 旭川 宮本監督官
- 7月7・8日 帯広 高藤監督官
- 10月27・28日 岩見沢 岩淵監督官
- 11月20・21日 北見 佐々木課長
- また北海道競馬事務所からは
- 6月30日 北見 荒谷課長
- 7月7日 帯広 益子次長
- 瀬口主任
- 9月21日 旭川 伊藤係長
- 2 千客万来
- 4月25日 全道水道協会30名来場
- 5月5日 中央競馬藤森専務他6名
- 地全協渋谷部長
- 5月8日 地全協大山会長来場
- 6月2日 大井競馬場寺島監査役他24名
- 6月5日 栃木県地方競馬鎌田副委員長
- 6月23日 競走馬理化学研究所、近藤氏他1名
- 7月7日 地全協川島部長
- 7月14日 地全協小笠原副会長他2名
- 全公営志見次長他1名
- 7月24日 岩手県競馬組合役員中野氏他2名
- 7月29日 石川県競馬組合藤本局長
- 7月31日 中央競馬会内林理事他3名
- 8月26日 地全協広報課景山氏他1名

10月17日 名古屋競馬組合一行17名

10月24日 芸尾競馬組合7名

10月28日 全公営山田局長

11月27日 フランスベルシユロン協会

一行来場

以上の方が来場されました。

3 落語家柳谷小三治の来場

本州から来道の方で、一度ばんえいを見たいと言う方が最近多くなった。地方公演の暇を見つけて四月二十五日岩見沢競馬場に人気落語家柳谷小三治他四名が来場。一日楽しんで帰られた。はたして成績はどうでしたか？

4 金魚すくいで楽しい一日

六月三日旭川競馬場チビッコ広場内の小川に金魚二〇〇〇尾を放流し大勢のチビツ子が、「はじめ」の合図で水の中に入り、おどろいて逃げる金魚を追い回し「やめ」の合図までに一匹もすくえなく、泣き出すチビツ子、ついに親まで水の中に入り金魚を追う一幕もあり、おおにぎわいの一日でした。



5 米どころ上川は大豊作

今年の北海道は六月頃から気温が上昇し、七、八月は異状な高温も水田には幸し、史上最高の一〇アール、五五キログラムの大豊作であった。特に上川地方は全道平均を上回る五五キログラムの収穫で、稲刈時期も一カ月早く、旭川競馬が始まった九月にはすっかり刈取り終



了、農村のファンは豊作ムードで競馬を
楽しみに来てくれたためか、お陰様で旭
川競馬は前年対比一〇九・八%の好成績
であった。

6 新人、林騎手五戦三勝

第二回北見最終日の七月二日、新人林
騎手が五戦三勝の大活躍をした。

第一R、三才で一着、第二R七着、第
五R六着、第七R、第八Rは二連勝と新
人らしからぬ手綱さばきを見せた。

第一回帯広の七月十五日には、通算二
五勝をあげ、減量騎手の△印がとれたが
昨年度の新人藤本匠騎手より一日遅れの
四十一日目であった。

7 日本中央競馬会理事長の来場

七月三十一日帯広競馬場に、日本中央
競馬会内村理事長が田口日高育成場長の
案内でご夫人同伴でご来場になった。

中央競馬会職員や、厩舎関係者は、岩
見沢、旭川両場には数回来場したことが
ありますが、理事長の来場は初めてでし
たが、三〇度を過ぎ炎暑の中で、汗をふ
きふき熱心に観戦、時々馬券も楽しんで
おられたようでした。

8 記録的な真夏競馬

全国的な暑い夏であったが、北海道は
特に記録的な炎暑が続いた。

帯広競馬は7月下旬から毎日のように
三〇度を過ぎ猛暑が続き、最高は三四・
四度を記録し、史上に残る暑い夏であっ
た。馬場は乾燥して砂塵はモウモウ、馬
も人もバテ気味、ファンは扇風機をかけ
てオリンピックのTVにかじりつき、競

馬場はカンコ鳥がなき、暑さとオリンピ
ックのダブルパンチで帯広競馬は完全に
K・Oされてしまった。

9 本会囑託村上祐吉氏逝く

昭和五十五年度より本会囑託投票員と
して執務してきた村上祐吉氏は、五月四
日より入院加療中であつたが、腎不全の
為八月三日他界された。温厚で明るい性
格で仲間から親しまれた人物なだけに、
深く哀悼の意を表する次第です。



10 オリニックに食われた帯広競馬

七月二十九日から八月十三日までオリ
ニックと競合した帯広競馬は、完全に
オリニックに食われてしまった。

開会中は、日曜日でも一度も二億をオ
ーバーする日が出なかつた。

目立ったのは開会式の七月二十九日の
日曜日が一億九一〇〇万円、山下の出場
した柔道の八月十二日の日曜日が一億七
四〇〇万円、瀬古の出場したマラソンの
日が一億四四〇〇万円と昼間のTV放映
でファンはTVに釘付になったためか、
被害は甚大であつた。

NHKの発表によると、これ等は五〇
%近い観客率であつたとか。面白い現象
としては、瀬古の負けたマラソンが終了
した午後からは、入場者が急増加して
きたことである。

11 帯広で同着オンパレード

同着は年間通しても数あるものではな
いが、今年の帯広は多かつた。
第四回帯広第五日の八月十六日の第九
R三才特別、及び第十一R四才以上特別
の二Rが一着同着となり、一日二R一着
同着のレコードとなつた。

また、第五回帯広では初日第一R二着
同着、三日目第六Rと八Rが二着同着で
一日二回、六日目第五Rが一着同着と、
一期間に四回も同着ができたのもレコー
ドであり、決勝判定委員は大忙しであつ
た。

12 大穴続出一R平均三、〇八〇円

第五回旭川第四日目は最近にない大荒
れの日であつた。

第一Rから三〇三〇円、第二Rも三、
八一〇円と続き、一日第十一R中、五千
円台一R、四千円台二R、三千円台二R、
二千円台三R、千円台三Rであつた。

本年度の払戻金の最高は一四、八八〇
円、最低は一六〇円平均二、〇二〇円で、
千円台が最高で三六・二%、第二位が二
千円の一四・七%であり、一〇〇円台は
〇・二% (三R)、一〇〇円台は〇・五%
(七%) と極短に少なく、又一万円以上
は〇・七% (二〇R) とこれも少ない方
である。

13 三才で年間一、〇〇〇万円突破
カネミフロンティア号(雄、鹿)が、
三才馬のチャンピオンに輝き、年間取得
賞金一、一〇五万円のレコードを樹立し
た。



成績は十三戦八勝、二着二回、三着二
回、五着一回の着外なし。

秋には青雲賞、ホクレン賞の二重賞を
含め四連勝の立派な成績であつた。

父ゴウカイ号、母第二栄花号で父馬は
昭和五十五年まで出走していた馴染の深
い馬で、本年度初めて産駒が出走し、こ
の大ヒットを飛ばし、今後の活躍が楽し
みである。

14 フランスではんえい競馬を?
はんえいもいよいよ国際的になつてき
た。



十一月二十七日、フランスの競馬関係者二名が野沢組松本精一さんの案内で北見競馬場を訪れ、ばんえい競馬を視察した。フランスばんえい競馬(トレイ・トラック)協会会長ジェローム・サリセツティさんと、ベルシユロン生産者協会会長のフランソワ・シュワナルさんでフランスでは現在リジュールとランスの二つの町でアトラクション的に各一回開催したが、評判が良いので現在の二場を五場に増やし、来年度から正式に馬券を売る本格的なばんえい競馬開催の計画中のこと。二日間じっくりと視察し、かなり参考になったようであった。

15 今年度の勇退調教師

十一月二十五日、北見競馬場において三名の調教師の方が勇退されました。

永年に渡り、ばんえい競馬発展のために努力された三名が仲間の調教師、騎手の拍手で見送られ、今年度かぎり、競馬場生活にピリオドを打たれました。

調教師手 嘉見次夫

野々宮重樹

藤田貞雄

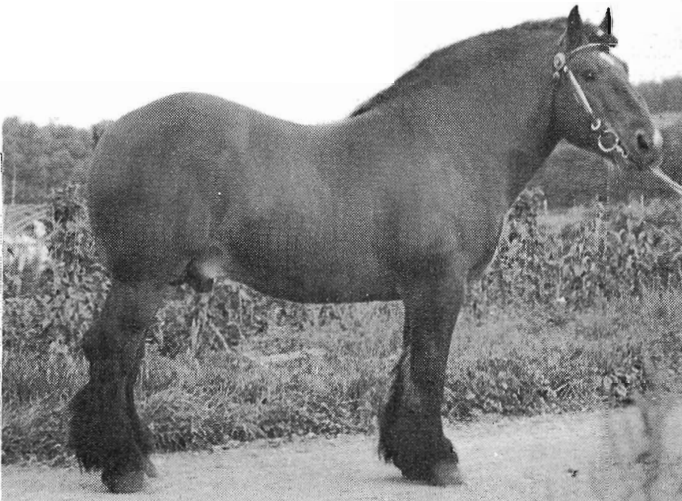
長い間、大変ご苦労様でした。



ばんえい競走に初めての血統

豊頃農業協同組合がフランスから購入した種馬がこのほど到着し、「将来は、日本一のばん馬が生まれるだろう」と馬飼育農家の期待を集めている。

よりよい馬を生産するため、同農協は五十七年にフランスからベルシユロン種の「ネビアス号」を導入、効果をあげたが、今回はアルデンネ種の「コスト・ドウ・パロン号」を導入した。体高一・七二メートル、体長一・八五メートル、体重一トンの八歳農家の人々



アルデンネ種 コスト・ドウ・パロン号

は「すごいのがきてくれた」と喜んでる。アルデヌ県産のアルデンネ馬は有史以前、ソルトレ期のしし鼻をもった馬の子孫で、フランス産馬としては長い歴史をもっている。大きな体軀はベルギーの血統から得たもので、その力強さ、落ち着き、きわめて濃厚な性質ゆえに、この種の馬は人気がある。体軀がよく引き締まり、下肢は短く、大柄である。被毛は鹿毛、栗毛、かす毛、紅かす毛である。

ばんばん祭典

馬産奨励事業の一環である祭典(記念)ばん馬競走も、年々内容が充実し、本年の開催は27市町村となり、祭典(記念)ばん馬競走保存奨励事業としての各主催者の努力のほどがうかがえます。今後とも市営競馬発展のために馬産奨励に御協力をお願いします。

ここに、各主催者より送られた終了報告書をもとにして各地の祭典(記念)ばん馬競走を紹介いたします。

- 第十七回足寄町家畜祭競走大会
 - 一、主催 足寄町ばん馬協会
 - 会長 齊藤 祐一
 - 二、開催日 九月十五日
 - 三、場所 足寄町里見が丘常設会場
 - 四、出走頭数 九十七頭
 - 五、競走数 三十五レース
 - 六、入場者数 一、〇〇〇名
 - 七、本会副賞受賞馬 サドタカラ
 - 八、馬主 幕別町 宮島秀行
 - 九、明年度開催の予定 九月
- 第十回根室市馬事競技大会
 - 一、主催 根室市馬事振興会
 - 会長 矢部 博之
 - 二、開催日 九月十六日
 - 三、場所 根室市馬事公園
 - 四、出走頭数 八十頭
 - 五、競走数 二十二レース
 - 六、入場者数 三、〇〇〇名
 - 七、本会副賞受賞馬 リユウドウ
 - 八、馬主 釧路市 山根正勝
 - パール 雄十才



- 九、明年度開催の予定 九月
- 早来町競馬競走同好会
 - 一、主催 早来町競馬競走同好会
 - 会長 橋本 善吉
 - 二、開催日 九月十六日
 - 三、場所 早来町新栄鞍馬競走特設会場
 - 四、出走頭数 五十八頭
 - 五、競走数 二十八レース
 - 六、入場者数 二、一〇〇名
 - 七、本会副賞受賞馬 カゲシンザン
 - 八、馬主 札幌市 葛西博信
 - 九、明年度開催の予定 九月中旬
- 第十一回馬事競技大会
 - 一、主催 別海町馬事愛好同志会
 - 会長 半田 秀雄
 - 二、開催日 九月二十二、二十三日



- 三、場所 別海町農村広場
- 四、出走頭数 百六十五頭
- 五、競走数 三十四レース
- 六、入場者数 二六、〇〇〇名
- 七、本会副賞受賞馬 カツエーカン
- 八、馬主 白糠町 小倉勇三郎
- 九、明年度開催の予定 九月
- 池田町競馬競走大会
 - 一、主催 池田町競馬愛好会
 - 会長 田中 弘
 - 二、開催日 六月十五日
 - 三、場所 池田町字滑見特設会場
 - 四、出走頭数 六十八頭
 - 五、競走数 二十三レース
 - 六、入場者数 二、〇〇〇名
 - 七、本会副賞受賞馬 ノブトソヒメ

重半 雌八才

- 八、馬主 池田町 阿部孝雄
- 九、明年度開催の予定 六月十五日

○第五回浦幌町ばん馬大会

- 一、主催 浦幌町馬産振興協議会
- 二、開催日 八月十九日
- 三、場所 浦幌町字帯富特設会場
- 四、出走頭数 四十八頭
- 五、競走数 二十八レース
- 六、入場者数 五〇〇名



- 七、本会副賞受賞馬 フジノサカエ

雄十一才

- 八、馬主 旭川市 前田寿幸男
- 九、明年度開催の予定 八月中旬

○鹿追町鞍馬競技大会

- 一、主催 鹿追町瓜蓐競馬会
- 会長 菊地 義憲

二、開催日 八月二十一日

- 三、場所 鹿追町瓜蓐競馬場

四、出走頭数 六十頭

五、競走数 三十レース

六、入場者数 八〇〇名

七、本会副賞受賞馬 キタノシンボル

雌二才

八、馬主 標津町 木村正一

九、明年度開催の予定 八月二十一日

○第七十五回音更東士幌鞍馬競馬大会

一、主催 音更町東士幌鞍馬競馬会

会長 田宮 一夫

二、開催日 九月二日

三、場所 音更町東士幌神社特設競馬場



四、出走頭数 六十五頭

五、競走数 二十一レース

六、入場者数 二、〇〇〇名

七、本会副賞受賞馬 ミナタカラ

雄二才

八、馬主 本別町 加藤 茂

九、明年度開催の予定 九月二日

○第十回上士幌町ばん馬競馬大会

一、主催 上士幌町鞍馬同好会

会長 中島 新一

二、開催日 九月二十日

三、場所 上士幌町鞍馬競技場

四、出走頭数 七十七頭

五、競走数 二十八レース

六、入場者数 五〇〇名

七、本会副賞受賞馬 タミオヒメ

雌九才

八、馬主 遠軽町 新木正一

九、明年度開催の予定 九月二十日

○第三回幕別町鞍馬競技大会

一、主催 幕別町鞍馬競技大会

実行委員長 国枝 光明

二、開催日 九月二十三日

三、場所 軍岡特設馬場

四、出走頭数 六十五頭

五、競走数 二十四レース

六、入場者数 一、二〇〇名

七、本会副賞受賞馬 キュートボーイ

半血 鬪四才

八、馬主 幕別町 森脇 誠

九、明年度開催の予定 九月

○伊達鞍馬競技大会

一、主催 伊達市馬産改良同志会

会長 加茂 実

二、開催日 六月二十四日

三、場所 伊達市北黄金町特設会場

四、出走頭数 八十二頭

五、競走数 二十一レース

六、入場者数 七九〇名

七、本会副賞受賞馬 北野二世

ブル系 雄二才

八、馬主 室蘭市 菊地 勲

九、明年度開催の予定 六月

○浜中町畜霊祭

一、主催 浜中町畜霊祭実行委員会

大会長 渡部 和雄

二、開催日 十月七日

三、場所 浜中町字浜中市街

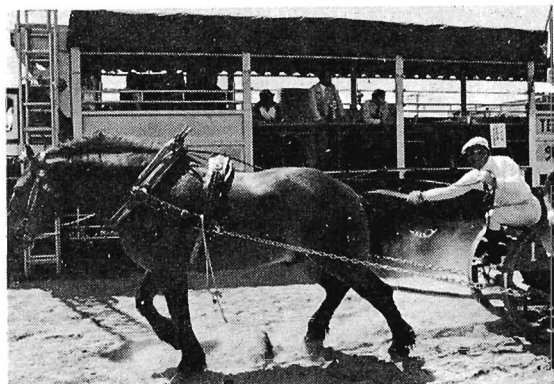
四、出走頭数 一三五頭

五、競走数 二十七レース

六、入場者数 七〇〇名

七、本会副賞受賞馬 足姫

ブル 雌三才



八、馬主 浜中町 梶原隆二
九、明年度開催の予定 十月六日

○滝上町秋期鞍馬競技大会
一、主催 相馬妙見神社愛馬講

会長 齊藤 忠治

二、開催日 九月一日
三、場所 滝上町幸町鞍馬競技場



四、出走頭数 五十七頭
五、競走数 二十五レース
六、入場者数 二、〇〇〇名

七、本会副賞受賞馬 初梅 ペル 雌十才

八、馬主 滝上町 柴田栄次郎
九、明年度開催の予定 九月一日

○弟子屈町鞍馬競技大会

一、主催 弟子屈町馬産振興同志会

会長 阪口 麻一



二、開催日 九月九日

三、場所 弟子屈町鞍馬場

四、出走頭数 八十八頭

五、競走数 二十三レース

六、入場者数 一、五〇〇名

七、本会副賞受賞馬 ルパン三世 半血 雄二才

八、馬主 弟子屈町 長谷川義晃

九、明年度開催の予定 九月八日

○第七回下川町ばんえい競技大会

一、主催 下川町鞍馬競技大会

名譽大会長 原田 四郎

二、開催日 九月二日

三、場所 下川町西町特設会場

四、出走頭数 五十一頭

五、競走数 十九レース

六、入場者数 一、二〇〇名

七、本会副賞受賞馬 シンチョウ 半血 雌三才

八、馬主 下川町 黒川西郎

九、明年度開催の予定 九月

○標津、中標津連合馬事競技大会

一、主催 標津 中標津地区馬事愛好会

会長 秋山 隆男

二、開催日 七月二十八日

三、場所 中標津町南中特設競馬場

四、出走頭数 一〇八頭

五、競走数 二十六レース

六、入場者数 五、〇〇〇名

七、本会副賞受賞馬 レットライオン

半血 雌六才

八、馬主 弟子屈町 端 正汗

九、明年度開催の予定 八月中旬

○室蘭港まつり

一、主催 室蘭鞍馬同志会

大会長 笹浪 幸男

二、開催日 七月二十九日

三、場所 室蘭市入江町港湾業務用地

四、出走頭数 五十三頭

五、競走数 十八レース

六、入場者数 三、〇〇〇名

七、本会副賞受賞馬 ミコロ二世 中辛 雄三才

八、馬主 室蘭市 福岡正義

九、明年度開催の予定 七月二十八日

○第五回恵庭家畜競技大会

一、主催 恵庭市馬事振興会

会長 中島 十九男

二、開催日 九月二十三日

三、場所 恵庭市畜産共進会場

四、出走頭数 三十五頭

五、競走数 十九レース

六、入場者数 四、〇〇〇名

七、本会副賞受賞馬 セキ姫 ペル 雌十四才

八、馬主 恵庭市 松崎保男

九、明年度開催の予定 九月二十二日

○豊浦ばんば競技大会

一、主催 豊浦町馬産改良同志会

会長 西川 正

二、開催日 八月五日

三、場所 豊浦町字桜スカンジヤ広場

四、出走頭数 六十頭

五、競走数 十九レース

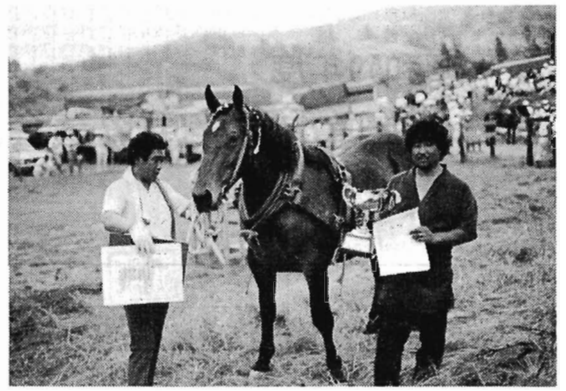
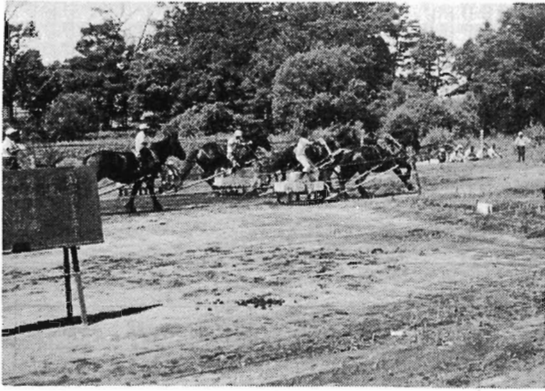
六、入場者数 五、〇〇〇名

七、本会副賞受賞馬 キノアレディ ペル 雌二才

八、馬主 豊浦町 西川 正

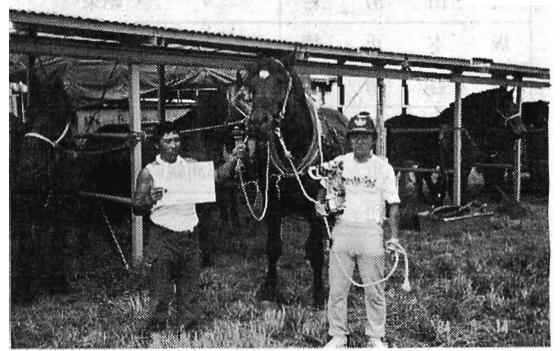
九、明年度開催の予定 八月五日

○室蘭港まつり



- 八、馬主 室蘭市 菊地英樹
- 九、明年度開催の予定 八月下旬
- 第六回栗山町夏祭り協賛馬競技大会
- 一、主催 栗山町鞍馬同好会
- 大会長 湯 浅 久 雄
- 二、開催日 七月二十七日
- 三、場所 栗山町観光センター隣広場
- 四、出走頭数 四十頭
- 五、競走数 二十二レース
- 六、入場者数 五〇〇名
- 七、本会副賞受賞馬 オタロウ
- 八、馬主 札幌市 坂爪
- 九、明年度開催の予定 七月
- 黒松内鞍馬競技大会
- 一、主催 黒松内町愛馬同志会
- 会長 小林 幸 作
- 二、開催日 八月十二日
- 三、場所 黒松内町字添別
- 四、出走頭数 六十頭
- 五、競走数 十八レース
- 六、入場者数 三〇〇名
- 七、本会副賞受賞馬 勝利
- 八、馬主 砂原町 加藤松男
- 九、明年度開催の予定 八月十一日
- 長沼相馬神社奉納鞍馬大会
- 一、主催 長沼相馬神社
- 大会長 村 山 敏 文
- 二、開催日 八月十七日
- 三、場所 長沼町農村広場
- 四、出走頭数 六十八頭

- 五、競走数
- 六、入場者数 五〇〇名
- 七、本会副賞受賞馬 ニシキザクラ
- 八、馬主 長沼町 田原欣一
- 九、明年度開催の予定 八月十七日
- 佐呂間神社祭典記念鞍馬競技大会
- 一、主催 佐呂間町畜産振興会
- 会長 栄 元 治
- 二、開催日 九月二十六日
- 三、場所 佐呂間町農協畜産センター
- 四、出走頭数 七十二頭
- 五、競走数 三十一レース
- 六、入場者数 一、四〇〇名
- 七、本会副賞受賞馬 サロマトップ
- 八、馬主 佐呂間町 千葉四郎



- 九、明年度開催の予定 九月下旬
- 当別町鞍馬競技大会
- 一、主催 当別町鞍馬競技会
- 会長 青山 勝 美
- 二、開催日 十月二十七日
- 三、場所 当別町字下川
- 四、出走頭数 四十二頭
- 五、競走数 十七レース
- 六、入場者数 三〇〇名
- 七、本会副賞受賞馬 第二姫
- 八、馬主 当別町 宮崎 勉
- 九、明年度開催の予定 九月二十日
- 第九回北渡島家畜商茅部支部鞍馬競技大会
- 一、主催 北渡島家畜商業協同組合
- 茅部支部長 西村 忠三郎
- 二、開催日 五月十三日
- 三、場所 森町字上台町
- 四、出走頭数 七〇頭
- 五、競走数 二十五レース
- 六、入場者数 一〇、〇〇〇名
- 七、本会副賞受賞馬 桜鼻
- 八、馬主 森町 水野武光
- 九、明年度開催の予定 六月十二日



昭和59年度

北海道市営競馬協議会馬産奨励事業奨励者名簿

交付者氏名	生産者奨励		
	住 所	馬 名	血 統 名
宮川 貞夫	足寄郡足寄町平和	イシカリヒメ	優 月
大竹口 勝義	〃 上足寄太	カツヨシ	麗 昇
富田 忠雄	〃 〃	キクカゼ	悌 勇
佐々木 政美	〃 稲牛	キタノヒリュウ	宝
加藤 長三郎	〃 平和	ササノヒメ	昭 栄
須藤 一美	〃 螺湾沢	ゼンシン	前 進
佐々木 正敏	〃 中稲牛	デワノハヤブサ	栄 裁
川田 徳延	〃 中足寄	バンリ	宝 栄
中村 国臣	中川郡池田町字千代田	カツハナ	恵 連
上田 健一	〃 青山	ケンザン	大 和
森田 語	〃 大森	コマヒメ	森 姫
佐川 修一	〃 常盤	スピードパワー	雄 宝
金川 貞雄	〃 豊田	タケトモオーザ	清 宝
成田 房吉	〃 昭栄	タツマキオーザ	勇 雄
坂本 正徳	〃 清見	ハルトカチ	輝 論
塚谷 晴英	〃 昭栄	モイワシンザン	久 博
阿部 孝雄	〃 信取	ヤマトイサミ	勝 竜
佐藤 重夫	十勝郡浦幌町貴老路	ウラホロトップ	鉄 錦
北野 利作	〃 上厚内	クラハナ	蔵 姫
〃	〃 〃	レットビューティ	雪 姫
島山 力松	〃 川上	コンドル	桂 力
笹原 弘	〃 生剛	タカラコトブキ	善 光
高田 至	〃 宝生	ツガルキング	桂 宝
小枝 義充	〃 幾千世	ベンテン	鉄 姫
佐々木 繁	帯広市西10条南10丁目	オーセイ	王 星
三井 樹雄	〃 西16条南4丁目117番地	カミチカオウ	勝 利
〃	〃 〃	ビックエース	勝 風 姫
舟越 栄太郎	中川郡豊頃町農野牛638番地	ウエストチエスター	第 五 松 風
小倉 勝義	〃 旅来 405 〃	カズヒメ	春 花
中原 昭吉	〃 育素多185 〃	キンザンパレード	宝 の 武
宝田 健一	〃 十弗 189 〃	クイーンタイトル	宝 寿
青田 政一	〃 二宮 3332 〃	ゴールドバンサー	紅 梅

交付者氏名	生産者奨励		
	住 所	馬 名	血 統 名
門 寿 雄	中川郡豊頃町礼作別 23番地	サ カ エ	玉 姫 の 一
松 井 孝 一	〃 二宮 912 〃	シ ゲ ヒ メ	宝 姫
松 井 秀 雄	〃 牛首別241 〃	マルキタイガー	秀 宝
木 幡 忠 義	〃 〃 二宮 906 〃	タカラハンター	神 宝
木 幡 勇	〃 〃 85 〃	タカラユーク	波 宝
脇 坂 金 治	〃 牛首別76 〃	タニノハクリュ	宝 雪
武 隈 茂 男	〃 〃 153 〃	タカラエイユウ	宝 鉦 梅
吉 村 広 道	〃 統内481 〃	ミヤマハクリュウ	北 洋
高 野 永 仁	〃 〃 〃 〃 二宮2598 〃	ヨシカツリユウ	高 王
川 間 義 信	〃 牛首別257 〃	タカラタイショウ	宝 勇
〃	〃 〃	タカラフジ	宝 光
〃	〃 〃	トツカワ	宝 姫
三 好 真 須 雄	中川郡幕別町猿別	オーウキリン	隆 真
佐 渡 忠 孝	〃 西猿別	キタノクニ	隆 協
〃	〃 〃	サルベツヒメ	隆 忠
磯 部 敏 雄	〃 千住	キタノミネ	勝 戦
万 藤 茂 太 郎	〃 豊岡	センショウリ	隆 花
長 崎 正 雄	〃 駒島	タカラメイケツ	北 宝
渡 辺 英 雄	〃 相川	ダイニユウシン	隆 信
佐 藤 勝 次	〃 新和	ナイスギャル	豊 姫
高 橋 宗 吉	〃 豊岡	ハクサカエ	隆 宗
岡 坂 徳 太 郎	〃 相川	リュウキング	清 栄
北 川 朝 夫	河東郡音更町字東和東 4線48番地	キクノカチドキ	洋 隼
高 杉 国 次	〃 上士幌町字居辺	カゲハヤブサ	第 四 英 信
南 相 生	〃 〃	キンダイオー	銀 河
村 上 ヨ シ ノ	〃 上士幌	スーパオデオ	王 雄
〃	〃 〃	モコトウリュウ	早 手
生 山 正 治	〃 上音更	トカチボーイ	力 松
浜 谷 克 雄	〃 上士幌	トカチマサユウ	栄 宝
西 部 金 治	〃 〃	ハツコマ	鉄 六 郎
横 野 武 則	河西郡更別村字勢雄	ニッセイパワー	武 宝
深 川 繁 信	上川郡新得町字屈足柏町 2丁目18番地	ビッグタロー	二 世 目 自 旭
浜 木 喜 一	〃 字上佐幌基線32番地	フジマル	梅 勇
長 野 功	〃 字屈足西 2線34番地	メジロニセイ	東 勝
木 幡 一 男	広尾郡忠類村字朝日69	アサヒルビー	南 宝
〃	〃 〃	パワーテンリュウ	花 姫
上 田 隆 一	中川郡本別町勇足西 5区	キタノツバサ	勝 勇

交付者氏名	生産者奨励		
	住所	馬名	血統名
高橋光次	中川郡本別町勇足東4区	タケテンザン	福優
秋葉守	〃 西4区	ツカサトupp	初鯉
遠藤長三	〃 拓栄	フタミハナ	団勇
本寺菊雄	〃 木札内	リュウコー	菊流
荒哲郎	〃 美里別東中	クリホーザン	北優
小松八郎	足寄郡陸別町上斗満	カゲアラシ	松勇
飛鷹武夫	〃 宇遠別	シユウテル	音勇
佐藤勇之助	網走市字能取25番地1～3	インターハイ	暁
安倍信男	〃 中園495番地	キングロッシニ	楓貴
吉井照一	〃 稲富558番地	ロッシニトupp (ポパイ)	陽光
中川貞夫	網走郡美幌町大通南2丁目19番地	ダイリュウエース	大和
柳沢成治	紋別市渚滑町1丁目	キタタロー	北太郎
藤枝勝行	〃 元西1	キタノナダ	北ノ洋
新岡法男	〃 元西3	ナイトキング	新山
山崎光雄	〃 新生	フジノタイトル	楓朝二世
高橋義光	〃 新生	ブルーサフィア	朝姫
笹崎義雄	〃 上渚滑町下和訓辺486	ベニアサヒ	笹椿
木村専治	〃 南ヶ丘7丁目	ホッカイタイショウ	ロッシニ三世
酒井啓馬	紋別郡滝上町字サークル原野南1線58	マルブツショーリ (旧マルブルカツ)	北栄
細井義雄	〃 〃 滝上原野4線北2	ミサワジャンボ	太郎駒
〃	〃 〃	メイズイオー	光駒
小野勝一	〃 上勇別町字中湧別340	ウルバンショーリ	北駒
野村昌宏	〃 〃 〃 706	リュウキコー	北宝
中川伝	〃 遠軽町字若松182	アラジン	駒桜
佐藤岑夫	〃 〃 栄野348	ダイイチフジ	第一富士
高橋貞雄	常呂郡常呂町字富丘264	アトランター	登竜
〃	〃 〃	トカチヤマ	勝竜
田淵一夫	〃 豊川124	サクラリュウ	千代ノ富
土田建	〃 岐阜620	エゾコナン	湖南
伊丹勝敏	〃 佐呂間町字仁倉671	サロマトupp	大桜
長谷部晴次	〃 〃 朝日157	アポロツカサ (HIハイライン)	宝栄
徳田栄治	〃 〃 若里793	ヒカルムサシ	徳永
柴田秀雄	〃 〃 仁倉318の2	ランナー	第三宝
千葉四郎	〃 〃 北306番地	ホマレエイコー	宝勝
〃	〃 〃	ムサシキング	錦山
太斉吉男	斜里郡斜里町字大栄8	シレットコホマレ	知床誉
原輝正	〃 美咲4	タカラキンザン	宝金山

交付者氏名	生産者奨励		
	住 所	馬 名	血 統 名
山内紀光	常呂郡端野町字協和365	セイフウ	清 楓
高木幸雄	網走郡女満別町字巴沢145	キタミコマ	宝 駿
橋本留二	〃 〃 豊里253	ショウリュウ	昭 隆
伊藤正憲	〃 〃 230-2	ハヤタイショウ	稔 豊
林タイ子	斜里郡小清水町字小清水126-6	ハヤリキオー	松 風
片平信淵	〃 〃 〃 美輪509	フ ミ コ	春 栄
諸橋英治	北見市東相内689	アイズセイコー	英 山
今泉隆司	〃	イズミオーザ	鳳 王
久田正栄	〃 相内204	カイブツ	怪 物
萩原和幸	〃 柏木39	カムイオー	瑞 玉
北口政吉	〃 〃 180	タカスショウリ	優 山
佐藤重春	常呂郡訓子府町字訓子府532の28	ム テ キ	琴 勇
篠原勲	網走郡津別町字共和213	メイセツオー	隼
渡辺三郎	川上郡弟子屈町原野	イデクイーン	輝 雪
佐々木トシ子	野付郡別海町別海	ハヤブサニセイ	楓 姫 二世
掛村秀夫	厚岸郡浜中町榊33	イチフジタカラ	富 登
伊藤武男	〃 茶内6番沢	クシロターポー	春 光
加茂善定	〃 姉別南	ストロングベア	慧 星
加茂 齐	〃 姉別	ナンスイ	南 椎
千葉義克	川上郡標茶町阿歴内	ゴールドサカエ	宝 根
堀正雄	〃 中久著呂	ダイヒットエース	宝 富 士
〃	〃 〃	ヒカルタイショオ	第 二 富 士
佐藤久一	〃 阿歴内	ツキノシャレード	第 三 双 春
古川俊宣	〃 〃	ドウホクシンザン	北 宝
大野喜一郎	〃 小林	フジアラシ	石 の 鵬
高橋泰治	〃 阿歴内	ブラックレディ	由 名
安達忠義	〃 富士	ミサワコダイ	釧 竜
藤田徳次	白糖郡白糖町茶路川西	ウルフカンムリ	雄 宝
江崎一郎	〃 新興	カイホウ	春 駒
川原寛	〃 庶路4	キタノホーユー (旧キョザシリユウ)	稔 盛
芳沢保	〃 大秋	キンセイハ	虹 宝
富山勝	〃 緑	ダイスーパーエース	釧 風
室内稔	〃 東2北1	トキノオーカン	稔 風
田中領治	〃 相互	ハヤタロウ	桜 山
寺下キエ	〃 東栄	ヒガシイチ	宝 竜
山崎薫	〃 上茶路	ヤマキクハナ	第 八 菊 花
中屋敷長司	〃 下茶路	ユウタロー	南 成

交付者氏名	生産者奨励		
	住 所	馬 名	血 統 名
松野 宏	白糖郡白糖町末広	ロードマリア	優 節
川原 義信	釧路市武佐3の33	クシロトップ	栄 昇
木村 武志	〃 大楽毛1の7	カズミノル	釧 路 星
〃	〃 〃	キソクヒメ	釧 路 勝
〃	〃 〃	タケコマニセイ	釧 雄
〃	〃 〃	ハツヒカリ	豊 釧
野沢 定美	阿寒郡阿寒町上徹別	カセツ	駒 光
山本 鉄春	〃 下舌辛	カネミホース	冠 怒
高橋 正司	〃 上舌辛	カヤベニシキ	泰 釧
安藤 勝二	〃 仁々志別	セントルイフジ	羨 渡 壘 須
木村 勝一	〃 西徹別	アサヒパワー (旧ツカサ)	銅 勝
野沢 利男	〃 飽別	トゥリリュウヒメ	昭 宝
須藤 宣一	〃 富吉	ホクシンオー	北 清 竜
安藤 功	〃 鶴居村幌呂	イデフジノボル	藤 昇
岩城 米光	旭川市東旭川町上兵村北3	クインイワイ	宝 竜
嶋田 孝四郎	富良野市山部町東20線	シマノローズ	第 三 玉 姫
相場 健一	名寄市字朝日	サクラオーゴン	若 千 代
友添 博	上川郡下川町桑の沢	ダイイチヨシツネ	北 栄
光富 光次	深川市多度志町宇ツカヤオマナイ2	ホウエイヒメ	光 姫
坂田 剛	深川市多度志町字鷹泊	マルトツヨシ	盤 勇
吉岡 英治	雨竜郡沼田町共成第1	シントツブ	栄 駒
斉藤 隆	天塩郡天塩町字北更岸	カヤベテンリュウ	天 竜
高橋 良徳	〃 〃 雄信内新成	シゲノハラトップ	雄 姫
梶浦 忠	〃 幌延町字幌延	ハクマサル	岳 風
佐々木 富三郎	幌泉郡えりも町字苫別	エリモクイン	茜
関村 清	新冠郡新冠町泉	キヨサカエ	第 二 栄 姫
和田 豊美	〃 新栄	ユーヒカリ	勇 将
山本 忠雄	静内郡静内町字真歌2	キヨウトップ	宝 竜
山本 ミヤ	沙流郡門別町正和	ミスチドリ	第 二 入 姫
谷川 勇次郎	〃	ロッキーヒメ	第 三 栗 姫
浅沼 利吉	三石郡三石町西端	アサヒカゼ	専 蔵
佐藤 一郎	川上郡弟子屈町奥御卒別	キングラス	仙 勝
森野 敏政	沙流郡日高町日高457	イブリコマ	第 三 桜
〃	〃 〃	サカエコマ (旧サカエコマエ)	第 七 豊 年
本多 軍蔵	〃 富岡405	イブリフジ	栄 駒
尾関 行雄	〃 日高93	ヒダカトップ	釧 節
新井 愛子	勇払郡追分町若草	タツヒメ	福 姫

交付者氏名	生産者奨励		
	住 所	馬 名	血 統 名
酒 井 秀 克	〃 早来町緑丘	キンセイハヤブサ	緑 姫
遠 藤 久 夫	〃 北進86	ハクタイコー	白 山
長 谷 川 均	〃 遠浅	マルトセンリョウ	小 将
〃	〃 〃	マルトハンダー	王 将
〃	〃 〃	ミネノシヨウカ	王 女
及 川 盛	〃 穂別町栄3	キタノウミ (旧スターフレーム)	芳 栄
間 瀬 藤 雄	〃 〃 稲里	ホベツジョキー	姫 波
道 下 湊 三	雨竜郡北竜町字美葉牛	ビホロホース	北 竜
田 中 慶 一	夕張郡栗山町旭	ユウヒノデ	勝 勇
片 山 光 夫	〃 長沼町東町	アオモリハヤテ	光 栄
西 村 勇	〃 〃 18区	キタノユウショウ	公 勇
原 田 森 成	雨竜郡秩父別町協栄	タカマス	春 勇
立 谷 貢	虻田郡虻田町字泉226	キンショウ	千代の富士
菊 地 博	〃 洞爺村字成香	サンマルサン	第二宮 菊
安 宅 光 夫	有珠郡壮瞥町字仲洞爺7	ヒタチフジ	朝 風
岩 倉 博	〃 字滝ノ町287	ホマレテンリュウ	岳 博
谷 川 恒 夫	白老町字北吉原528	タニノヒメリユウ	姫 竜
高 橋 美 千代	伊達市北黄金町93	カイジンハヤテ	高 緑
菊 地 英 樹	室蘭市みゆき町1丁目	キクイサミ	菊 勇
勝 木 豊	虻田郡豊浦町字桜140	トウショウ	闘 魂
北 山 金 蔵	山越郡長万部町新開町	イマガネムライチ	第二桜 姫
〃	〃 〃 〃	ヨウテイトップ	第二峰 友
野 舘 弓 男	〃 〃 共立	フジイサミ	天 朝
山 崎 正	〃 〃 本町	ヤマハナオー	山 花 王
坂 本 勝 利	茅部郡森町赤井川233	ドウナンシャード	第一春 風
清 藤 勇 一	〃 砂原町字彦濶121	フジハヤテ	椿
早 瀬 猛 夫	檜山郡厚沢部町美和114	イレマルバイコー	厚 錦
本 多 満 二	松前郡松前町字館浜58	コマイサミ	大 吾



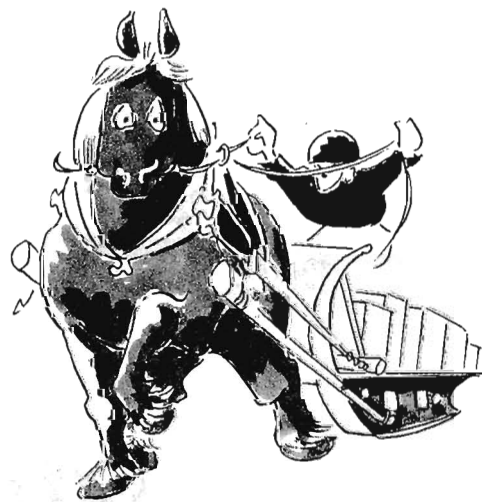
競走経歴種雄馬管理者奨励金交付者

交付者氏名	競走経歴種雄馬管理者奨励		
	住 所	種 雄 馬 名	出 走 馬 名
豊 頃 町 農 協	中川郡豊頃町中央若葉町12番地	タカラコマ (家宝)	アサヒルビー 他9頭
長 谷 部 信 悦	沙流郡日高町字日高211-1	テツリュウ (鉄嵐)	イブリコマ 他6頭
只 野 幸 一	足寄郡足寄町上足寄	タカラハヤブサ	カゲハヤブサ 他5頭
中 村 米 良	中川郡池田町字千代田	バートハウショウ (シンリュウ)	カイブツ 他4頭
三 浦 勇	常呂郡佐呂間町字川西229	ムサシ (琴宝)	サロマトツブ 他3頭
新 木 ト ヨ	紋別郡遠軽町福路3丁目7番地	ダイイチウルバン (ウルガット三世)	アラジン
長 村 豊 司	阿寒郡阿寒町上舌辛	ダイイチカツエイ	カセツ 他2頭
金 田 正 義	斜里郡小清水町字小清水美輪448	ロンジ (松風)	シヨウリュウ 他2頭
青 田 善 夫	帯広市西20条南4丁目19-3	タツマキ (初光)	タツマキオーザ 他2頭
高 畑 静 男	有珠郡壮瞥町字立香51	カイジン (玲泉)	カイジンハヤテ
西 村 勇	夕張郡長沼町18区	ナガマハヤテ (勇進)	キタノユウショウ ユウヒノデ
端 正 行	川上郡弟子屈町錫別	イシノシンボル (仙山)	キンジアラシ フジ
安 藤 岩 一	亀田郡大野町千代田228	ダイイチホンユウ (北清)	コクミンサミー ホクシンオー
千 貝 義 雄	稚内市緑1丁目1	シゲノハラ (太陽)	シゲノハラトツブル ハクマサ
宮 坂 実	上川郡清水町熊牛	メジロアサヒ (第二東洋)	ビツグタロー メジロニセイ
田 中 光 儀	阿寒郡鶴居村下久著呂	タケコマ	キタケコマニセイ ヒセイ
若 狭 定 雄	檜山郡上ノ国町中須田412	バイコ (第三梅幸)	イレマルバイコー
高 橋 一 夫	天塩郡天塩町新栄通り3丁目	ユウザン (鹿山)	カヤベテンリュウ
梶 原 隆 二	厚岸郡浜中町熊牛原野	イチフジ	イチフジタカラ
上 杉 義 晴	野付郡別海町別海	キヨモリ (第一力)	キタノホーユー (旧キヨザシリウ)
安 瀬 鐘 男	川上郡標茶町南標茶	ヤマトサカエ (宝勇)	ゴールドサカエ
大 道 実	野付郡別海町別海	ハヤブサ (映宝)	ハヤブサニセイ
渡 辺 芳 次	広尾郡忠類村字本町	シンザン (岩勝)	バクシン
多 村 一 見	勇払郡穂別町稲里	トカチハヤテ (初鯉)	ホベツジョキー
松 下 栄	紋別郡滝上町字滝上原野3線北3番地	ハクバシロー (紅嵐)	ミサワジャンボ
山 根 正 勝	釧路市堀川7-24	ラクシウ (緑清)	ユウタロー
岩 城 米 光	旭川市東旭川町上兵村北3	ホームラン (蘭明)	クインイワイ
安 藤 武 利	釧路郡釧路町鳥通	フジロッシーニ	クシローターボー



競走経歴繁殖雌馬

交付者氏名	競走経歴繁殖雌馬奨励		
	住 所	繁殖雌馬名	出走馬名
北野利作	十勝郡浦幌町上厚内	ヒメテツリ (鉄姫)	クラハナ
〃	〃	ハナヒメマル (花姫)	レットビューティ
坂本正徳	中川郡池田町清見	ハルノブ (ニクラトップ)	ハルトカチ
徳田栄治	常呂郡佐呂間町若里793	ヒカルハナ (貴花)	ヒカルムサシ
道下羨三	雨竜郡北竜町美葉牛	ミスヤマト (呂博)	ビホロホース
本寺菊雄	中川郡本別町木札内	タキヒメ (第一清流)	リュウコー
吉岡英治	雨竜郡沼田町共成第1	ヒデナ (秀波)	シントップ
山本ミヤ	沙流郡門別町正和	ヒダイサミ	ミスチドリ
細井義雄	紋別郡滝上町滝上原野4線北2	ヒカルフジ	メイズイオー



{ 条例第46条(旭川市)
規則第44条(帯広市、北見市及び岩見沢市) }

1 着	2 着	3 着	4着以下
17,000円	13,000円	11,000円	8,500円

の規定により装鞍所に集合した馬の管理きゅう務員に対し、管理頭数4頭を限度とし次により支給する。ただし、当該競走において戒告以上の処分を受けたときは支給しないものとする。

4. 特別報償金

次に該当する馬の馬主、騎手、及びきゅう務員に対し、次により支給する。

該 当 事 項	支 給 内 訳
ア. { 条例第33条(旭川市) 規則第31条(帯広市、北見市及び岩見沢市) } の規定により、出走投票の結果、制限頭数を超えたため抽選により出走できなくなったとき、又は1競走の出走頭数が6頭以下のため、競走が取り止めになったときとし、当該開催競馬において同一馬につき1回とする。但し、当該開催の競走に出走した馬を除く。	ア. 当該競走の5着賞金相当額(ただし、30,000円を限度とする。 イ. 調教奨励金、騎乗奨励金及びきゅう務奨励金の5着奨励金相当額。
イ. { 条例第49条、第50条、又は第51条(旭川市) 規則第47条、第48条、又は第49条(帯広市、北見市及び岩見沢市) } の規定により、競走除外等で同枠のため除外(友引)になったとき。	ア. 当該競走の3着賞金相当額。 イ. 調教奨励金、騎乗奨励金及びきゅう務奨励金の3着奨励金相当額。
ウ. { 条例第23条第2項(旭川市) 規則第21条第2項(帯広市、北見市及び岩見沢市) } の規定により天災その他やむを得ない理由により、開催当日の競馬又は競走を取り止めたとき。	ア. 当該競走の5着賞金相当額。 イ. 調教奨励金、騎乗奨励金及びきゅう務奨励金の5着奨励金相当額。

5. 同着における報償金の支給

着順が確定した馬が同着の場合における報償金に

については { 規則第10条(旭川市)
要綱第9条(帯広市及び北見市)
細則第10条(岩見沢市) } の

規定により支給する。

6. 生産者に関する報償金

(1) 生産者賞

競馬番組に定められた重賞競走に出走し、確定した着順が第1着となった馬の生産者に対し、支給する。ただし、当該競走実施日において生存又は現存する生産者と

する。

生産者賞	重賞競走の1着賞金の3%相当額
------	-----------------

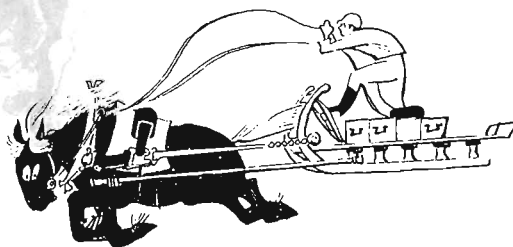
(ア) 着順が確定した馬が同着の場合においては、同着となった総頭数で等分した金額を支給する。

7. 報償金に対する納税

(ア) 騎手に支給する諸報償金については、その10%を主催者が徴収して納税する。

(イ) 馬主に対し、1回の支払賞金が75万円を越える場合は、下記の算式により主催者が徴収して納税する。

$$\{ \text{賞金} - (\text{賞金} \times \frac{20}{100} + 60\text{万円}) \} \times \frac{10}{100}$$



8. この要領に定めるものの他、番組編成上必要な事項については、番組編成会議で別に定める。

昭和60年度 {旭川市・帯広市} 地方競馬報償費支給基準 北見市・岩見沢市

(趣旨)

第1条 この基準は {旭川市地方競馬実施条例(以下「条例」という。)}
{帯広市及び北見市地方競馬実施条例規則(以下「規則」という。)}
{岩見沢市地方競馬実施条例施行規則(以下「規則」という。)}
{旭川市地方競馬実施条例規則(以下「規則」という。)}
{帯広市及び北見市地方競馬実施要綱(以下「要綱」という。)}
{岩見沢市地方競馬施行細則(以下「細則」という。)} 及び {旭川市、帯広市、北見市、岩見沢市}

地方競馬番組により開催する地方競馬(市営競馬)に参加した馬の馬主、調教騎手、騎乗騎手、きゅう務員及び生産者に対する報償金の支給に関し必要な事項を定めるものとする。

(定義)

第2条 この基準において、「馬主」、「調教騎手」、「騎乗騎手」、「きゅう務員」とは、

{ 条例第5条(旭川市)}
{ 規則第4条(帯広市、北見市及び岩見沢市)} に定める者をいう。

(報償金の種類及び支給額)

第3条 報償金の種類及び支給額は、次のとおりとする。

1. 馬主に関する報償金

(1) 賞金 競走に出走し、

{ 条例第69条(旭川市)}
{ 規則第67条(帯広市、北見市及び岩見沢市)}

の規定

により、確定した着順が第1着から第5着までの馬の馬主に対し、競馬番組で示した金額を支給する。

(2) 出走手当 競走に出走した馬、又は特別報償金の受給資格のある馬の馬主に対し、1開催1頭につき下記の金額を支給する。

出走手当	45,000円
------	---------

(3) 着外手当 競馬番組に定められた重賞及び特別競走に出走し、確定した着順が第6着以下の馬の馬主に対し、次の区分により支給する。ただし、失格及び競馬中止の場合は支給しない。

重賞競走	1着賞金300万円以上	100,000円
	1着賞金300万円未満	40,000円
特別競走		25,000円

(4) 輸送手当 開催市毎の連続開催期間内における競走に出走した馬、又は特別報償金の受給資格のある馬の馬主に対し、1頭につき下

記の金額を支給する。

輸送手当	12,000円
------	---------

2. 騎手に関する報償金

(1) 調教奨励金

(ア) 競走に出走した馬の調教騎主に対し、次により支給する。ただし、当該競走において戒告以上の処分を受けたときは支給しないものとする。

1着	2着	3着	4着以下
27,000円	23,000円	18,000円	13,500円

(イ) { 条例第102条(旭川市)}
{ 規則第99条(帯広市、北見市及び岩見沢市)}

の規定により調教業務の委託を受けた調教騎手に対し、当該競走に係わる調教奨励金を支給する。

(2) 騎乗奨励金

競走に出走した馬の騎乗騎手に対し、次により支給する。ただし、当該競走において戒告以上の処分を受けたときは支給しないものとする。

1着	2着	3着	4着以下
18,000円	14,000円	12,000円	9,500円

3. きゅう務員に関する報償金

(1) きゅう務奨励金

5. 負担重量

(1) 騎手重量 騎手重量は75kgとする。

(2) ばんえい重量

ア 3歳馬

ばんえい重量は500kgとし本年取得賞金60万円につき10kgの加増を行なう。なお、ばんえい重量は8月31日から510kg、11月2日から520kgとし、本年取得賞金60万円につき10kgの加増を行なう。

イ 4・5歳馬

3歳時より通算取得賞金により、次に掲げるばんえい重量とする。ただし、110万円未満については8月31日から190万円未満に編入し、10kg減量する。

取得賞金	400万円未満	290万円未満	190万円未満	110万円未満
ばんえい重量	620kg	600kg	580kg	560kg

ウ 4歳以上

昭和57年以降の取得賞金により、次に掲げるばんえい重量とする。ただし、4・5歳馬で編入する馬は同額賞金クラスに編入し、競走において10kg減量する。

取得賞金	1,300万円以上	1,300万円未満	1,000万円未満	850万円未満	700万円未満	550万円未満	400万円未満	300万円未満
ばんえい重量	700kg	700kg	680kg	660kg	640kg	620kg	600kg	600kg

エ オープン馬

昭和57年以降の取得賞金1,300万円以上の馬をオープンとする。

(3) 3歳及び4歳馬のせん馬は競走において10kg減量する。

(4) 3歳、4歳及び5歳馬の雌馬は競走において20kg減量とし、6歳以上の雌馬は10kg減量とする。

(5) 普通競走において全馬のばんえい重量が高重量となるときは、全馬の重量を一率に減ずることができる。

(6) 普通及び別定競走において委員長が指定する騎重騎手は、通算勝利度数により10kg減量する。

6. 騎乗の制限及び減量騎乗騎手の取扱いについて

(1) 騎乗騎手の1日の騎乗回数は6回までとし、連続騎乗できる回数は3回を限度とする。ただし、委員長が特に認めた場合はこの限りでない。

(2) 騎乗を変更した騎乗騎手は、翌日の騎乗を認めない。ただし、委員長が特に認めた場合はこの限りでない。

(3) 委員長が指定する減量騎乗騎手は、数え年30歳以下の騎乗騎手で通算勝利度数25勝未満の者とする。ただし、減量騎乗騎手扱いで、すでに出走投票された競走については25勝以上となっても減量騎乗騎手と同様の扱いとする。なお、出馬表には△印で表示する。

7. 昭和58年度以降に新馬登録をした雌馬の取扱いについて

昭和58年度以降に新馬登録した雌馬については7歳までばんえい重量を20kg減量し、雌馬のみで編成した競走の取得賞金は1/2とする。なお、8歳以降は優遇措置をしない。

番組編成要領

1. 出走馬の資格

次の各号全部の条件をそなえていること。

- (1) 地方競馬全国協会の登録を受けた馬
- (2) 軽種および軽半血種以外の馬
- (3) 日本国内で生産された馬
- (4) 新馬 3歳
古馬 10歳以下(ただし、昭和58年度せん馬優遇策に基づきせん馬となった馬は11歳までとする。)
- (5) 馬体重 3歳 700kg } 以上の馬
4歳以上 750kg }
- (6) 馬体検査、能力調教検査に合格した馬(他競馬場において合格した馬を含む)

2. 出走の拒否

- (1) こ疾の程度が重く、又は外観上みにくい馬
- (2) 出走取消をした馬及び競走除外馬(同枠除外を除く)は、その開催の残余期間。
- (3) 尋常で鉄を使用しない馬。
- (4) 調教が充分でない癖馬及び失明馬(片眼馬を含む)

3. 出走頭数の制限及び競走の取り止め

- (1) 1競走における出走頭数は、10頭以下とする。
- (2) 普通競走において、前項に定める頭数を超過して出走投票があった場合は、抽選により出走馬を決定する。
- (3) 前項により出走できなかつた馬は、競馬番組で示す当該馬が出走できる最初の競走に限り出走投票した馬に優先出走を認める。
- (4) 出走投票の結果、1競走の頭数が6頭以下の場合は、その競走を取り止め新たに競走を設けることができる。ただし、偶発的事故、疾病等により出走を取り消し又は、競走除外を命じた場合を除く。

4. 競走の区別

取得賞金額(1着～5着まで以下同じ)により編成し年齢別に次のとおりとする。なお、取得賞金は特に記載のない限り前回までの合計とする。ただし、3歳、4歳及び5歳馬の雌馬のみで編成した競走の取得賞金は1/2とする。

3歳 3歳馬のみの編成とする。

4・5歳 4・5歳馬の混合編成とし、通算取得賞金400万円以上の馬は4歳以上の競走に編入する。

4歳以上 4歳以上の混合編成とする。

昭和59年度 優秀騎手表彰



松井 浩トレーナー

☆リーディングトレーナー

- 第1位 松井 浩
- 2位 中坪 時雄
- 3位 中西 関松
- 4位 東川山 本幸一
- 5位 長沢 豊秋



金山明彦ジョッキー

☆リーディングジョッキー

- 第1位 金山 明彦
- 2位 工藤 正男
- 3位 木村 卓司
- 4位 西 弘美
- 5位 久田 守

昭和59年度種雄馬ランキング

3 才

順位	種類	種雄馬名	頭数	勝数	取得賞金(円)	主な出走馬
1	半血	タカラコマ	26	48	32,443,000	タカラセイウン, ブラックアリー, カチヒメ
2	ベルジ	マルゼンストロングホース	11	33	30,238,000	ハウショウリキ, タニノリュウ, マルサンセンパー
3	ベルジ	ジャンデュマレイ	13	31	22,569,000	ナイスヒメ, クインフェロー, マーキン
4	ベル	二世ロッシーニ	12	24	17,874,000	ダイニコウヒメ, リュウジン
5	半血	タカラハヤブサ	10	20	15,635,000	ハヤブサニシキ, アイヒメ
6	半血	ゴウカイ	2	12	15,510,000	カネミフロンティア, ヒカリクイン
7	ベル	第二オデオン	8	13	9,968,000	ショロヒカリ, フジテンザン
8	半血	ハクリュウ	7	11	7,157,000	ナオコ, ハクバフジ
9	ベル系	タツマキ	7	11	7,037,000	シンバオー, イナズマ
10	ベル	楓朝	9	12	6,726,000	カネミノル, アサマル

4・5才

順位	種類	種雄馬名	頭数	勝数	取得賞金(円)	主な出走馬
1	半血	タカラコマ	25	51	50,392,500	タカラタイトル, タカラフジ, クロタカ
2	ベルジ	ジュアンデュマレイ	32	64	47,890,500	マサライデン, センショウリ
3	ベル	二世ロッシーニ	23	47	36,199,000	キンタカラ, トカチヤマ, シゲノダンサ
4	ベル	楓朝	9	27	27,676,000	キンタイコー, セイフウ
5	ベルジ	マルゼンストロングホース	16	34	23,251,000	タニノヒメリュウ, マルトクイン
6	ベル	ボルール	12	19	18,100,000	ヤワラ
7	半血	富士	4	11	12,642,000	ヒカルタイショオ, ダイヒットエース
8	半血	シゲノハラ	8	20	11,581,000	キンオートリ, シゲトップ
9	半血	タカラハヤブサ	8	13	11,309,000	ゼンシン
10	ベル	久都	6	19	8,367,000	マサショウリ

6才以上

順位	種類	種雄馬名	頭数	勝数	取得賞金(円)	主な出走馬
1	半血	タカラコマ	35	75	76,357,500	ヤマトウンリュウ, タカラハナ, タカラショウリ
2	ベル	二世ロッシーニ	28	46	66,421,000	キンタロー, ハヤホマレ, タカノリュウ
3	ベル	楓朝	24	47	39,860,000	ダイニオノショウ, ホマレタイショオ, トキノオーザ
4	ベル	ボルール	10	21	30,324,000	ハイスピード, イデサカエ
5	ベルジ	ジャンデュマレイ	14	24	27,611,000	リュウハヤテ, キョウリュウ
6	ベルジ	マルゼンストロングホース	10	20	19,705,000	スターカップー, マルトカチヨシ
7	ベル	第二オデオン	8	11	18,364,000	カイリキ, チカラオーザ
8	ブル	銅柑	6	14	13,655,000	ロイヤルキング
9	ベル	産日	6	14	11,767,000	カワアラシ, ニッショウツバメ
10	ブル	キプロク	3	13	11,206,000	ハクマサヒカリ, ニイカップオー

昭和59年度賞金受賞ランキング

3 才

順位	競走馬名	父馬名	母馬名	性	年令	産地	生産者	取得賞金額 (円)
1	カネミフロンティア	半血 ゴウカイ	半血 第二栄花	雄	3	中標津	池田 明	11,050,000
2	ホウショウリキ	ベルジ マルゼンストロングホース	ベル系 ベニトップ	雄	3	深川	高橋 悟	7,795,000
3	タニノリュウ	ベルジ マルゼンストロングホース	半血 ミス大輪	雄	3	白老	谷川恒夫	6,860,000
4	ダイニコウヒメ	ベル 二世ロッシーニ	半血 幸 姫	雌	3	北見	八木沼義雄	5,420,000
5	ナイスヒメ	ベルジ ジャンデュマレイ	ブル系 ニコロトップ	雌	3	士幌	安村敏美	4,579,000
6	ヒカリクイン	半血 ゴウカイ	半血 サロマフジ	雌	3	弟子屈	渡辺 三郎	4,460,000
7	ハヤブサニシキ	半血 タカラハヤブサ	半血 光 栄	雄	3	足寄	青木 栄	4,400,000
8	タカラセイウン	半血 タカラコマ	半血 みどり	雄	3	豊頃	吉村広道	3,552,000
9	マルサンセンブー	ベルジ マルゼンストロングホース	半血 スズラン	雌	3	苫前	三住秀明	3,385,000
10	ロングボーイ	ベルジ マルゼンストロングホース	半血 朝 姫	雄	3	深川	谷 美喜男	3,250,000

4. 5才

順位	競走馬名	父馬名	母馬名	性	年令	産地	生産者	取得賞金額 (円)
1	キンタイコー	ベル 楓 朝	半血 日 光	雄	5	上勇別	笹島 清	11,765,000
2	タカラフジ	半血 タカラコマ	ブル系 能 信	雄	4	豊頃	川向義信	9,950,000
3	タカラタイトル	半血 タカラコマ	中半 ブル富士	雄	5	浦幌	秋山 優	9,855,000
4	ヒカルタイショオ	半血 富 士	半血 桜 武	雄	4	標茶	堀 正雄	8,230,000
5	ヤワラ	ベル ボールール	ベル 第二和姫	雄	5	釧路	押切清吉	6,970,000
6	クロタカ	半血 タカラコマ	ベル 王 産	雄	5	池田	福士元衛	6,495,000
7	ホダカマル	ブル ボヌール	ブル系 律 映	雄	5	足寄	石沢清一	5,315,000
8	セイフウ	ベル 楓 朝	ベル 清 姫	雌	4	端野	山内紀光	4,685,000
9	ゼンシン	半血 タカラハヤブサ	半血 川 姫	雄	4	足寄	須藤一美	4,397,000
10	イケズキ	半血 バンユウハ	ベル 初 春	雄	5	夕張	松田 昇	4,240,000

6才以上

順位	競走馬名	父馬名	母馬名	性	年令	産地	生産者	取得賞金額 (円)
1	ハイスピード	ベル ボールール	半血 宝 花	雄	7	白糠	藤田竹蔵	16,240,000
2	キンタロー	ベル 二世ロッシーニ	ベル系 宝 玉	雄	8	別海	桑川一郎	14,210,000
3	ヤマトウンリュウ	半血 タカラコマ	半血 豊 花	雄	7	豊頃	小沢信義	12,415,000
4	ハヤホマレ	ベル 二世ロッシーニ	半血 初 姫	雄	10	網走	川瀬芳雄	10,415,000
5	カイリキ	ベル 第二オデオン	半血 洋 国	雄	10	足寄	水間松男	9,240,000
6	ロイヤルキング	ブル 銅 柑	ベル系 藤 花	雄	7	弟子屈	渡辺 三郎	8,795,000
7	カミシホロトップ	ブル 蝶 武	中半 勇 栄	雌	8	北見	武田金十郎	8,270,000
8	イワイサミ	ベル 菅 敬	半血 前 進	雄	7	旭川	岩城米光	6,695,000
9	ハクマサヒカリ	ブル キプロク	半血 雅 勇	雄	7	池田	太田和治	5,845,000
10	キヨタカラ	ブル 鉄 鯉	半血 晏 露	雌	10	豊頃	武内昭三	5,680,000

昭和59年度市営競馬成績

主催者	期別	売得金額 (円)	1日平均 (円)	賞金額 (円)	入場人員 (人)	1日平均 (人)
旭川市	1	1,117,477,900	186,246,317	51,390,000	23,505	3,916
	2	1,351,416,900	225,236,150	58,040,000	26,139	4,357
	3	1,286,539,600	214,423,267	51,198,000	21,941	3,657
	4	1,363,164,800	227,194,133	52,624,000	21,245	3,541
	5	1,548,087,200	258,014,533	69,956,000	23,314	3,886
	計	6,666,686,400	222,222,880	283,208,000	116,144	3,871
帯広市	1	1,016,335,400	169,389,233	49,110,000	20,382	3,397
	2	1,029,354,000	171,559,000	51,010,000	19,836	3,311
	3	824,068,000	137,344,667	49,300,000	12,297	2,050
	4	1,352,735,200	225,455,867	54,050,000	22,867	3,811
	5	1,210,736,400	201,789,400	58,138,000	17,525	2,921
	計	5,433,229,000	181,107,633	261,608,000	92,907	3,097
北見市	1	897,772,900	146,628,817	43,854,000	15,876	2,646
	2	1,124,251,100	187,375,183	42,978,000	17,443	2,907
	3	890,987,800	148,497,967	47,378,000	12,569	2,095
	4	841,870,300	140,311,717	44,242,000	7,821	1,304
	5	1,065,575,100	177,595,850	45,668,000	10,920	1,820
	6	1,169,245,500	194,874,250	42,250,000	11,106	1,851
計	5,971,702,700	165,880,631	266,370,000	75,735	2,104	
岩見沢市	1	899,195,800	149,865,967	53,276,000	21,664	3,611
	2	1,010,476,800	168,412,800	58,500,000	22,410	3,735
	3	899,751,000	149,958,500	59,932,000	12,490	2,082
	4	1,040,970,800	173,495,133	65,252,000	13,621	2,270
	5	983,366,500	163,894,417	71,674,000	11,359	1,893
	計	4,833,760,900	161,125,363	308,634,000	81,544	2,718
合計		22,905,379,000	181,788,722	1,119,820,000	366,300	2,948

昭和59年度道営競馬成績

競馬場	期別	売得金額 (円)	1日平均 (円)	賞金額 (円)	入場人員 (人)	1日平均 (人)
帯広	1	698,191,000	116,365,167	78,480,000	15,632	2,605
	2	582,430,700	97,071,783	74,880,000	11,423	1,904
	3	780,463,200	130,077,200	79,200,000	11,348	1,891
	計	2,061,084,900	114,504,717	232,560,000	38,403	2,134
旭川	1	571,240,200	95,206,700	84,780,000	13,097	2,183
	2	652,572,800	108,762,133	82,170,000	13,334	2,222
	計	1,223,813,000	101,984,417	166,950,000	26,431	2,203
岩見沢	1	973,856,500	162,309,411	80,460,000	166,655	2,776
	2	961,272,500	161,321,266	79,650,000	16,374	2,729
	3	840,663,300	140,110,550	71,730,000	14,510	2,418
	4	903,880,400	150,646,733	83,790,000	13,132	2,189
	5	1,421,731,800	236,955,300	87,120,000	23,432	3,905
	計	5,101,404,500	170,046,817	402,750,000	84,103	2,803
札幌	1	1,860,927,900	310,154,650	82,710,000	43,870	7,312
	2	1,813,595,200	302,265,867	77,760,000	36,419	6,070
	3	1,939,598,300	316,390,867	95,400,000	42,664	7,111
	4	1,910,350,400	318,391,733	100,170,000	34,858	5,810
	5	1,938,003,100	323,000,517	103,500,000	37,584	6,264
	6	1,775,964,600	295,994,100	86,760,000	29,869	4,978
	7	1,986,531,000	331,088,500	118,170,000	31,973	5,329
	計	13,224,970,500	314,880,250	1,727,470,000	257,237	6,125
合計		21,611,272,900	207,800,701	2,529,730,000	406,174	3,316

昭和59年度引退馬(表彰馬)

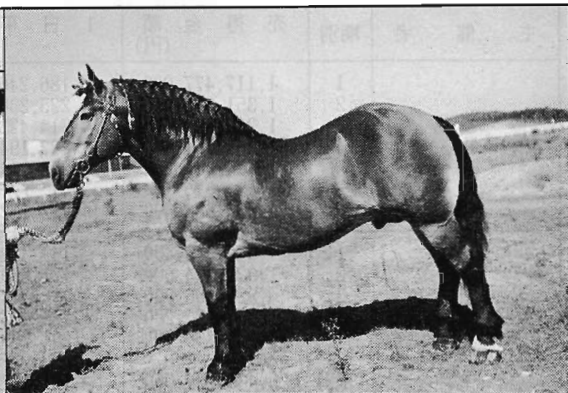


アキホープ号

- | | |
|---------|-------------|
| 1.生年月日 | 昭和50年4月1日 |
| 2.生産地 | 女満別町 |
| 3.生産者 | 杉本吉雄 |
| 4.通算成績 | 127戦16勝 |
| 5.取得賞金額 | 20,753,000円 |
| 6.性・毛色 | 牡青 |
| 7.血統 | |

重半 宝 鈴

— ペル 宝 嘉
— 中半 鈴 波

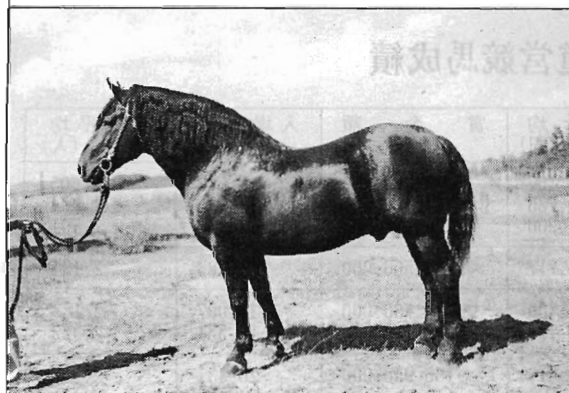


アサカゼ号

- | | |
|---------|-------------|
| 1.生年月日 | 昭和50年4月20日 |
| 2.生産地 | 池田町 |
| 3.生産者 | 北村金吉 |
| 4.通算成績 | 131戦12勝 |
| 5.取得賞金額 | 11,052,000円 |
| 6.性・毛色 | 牡鹿 |
| 7.血統 | |

中半 朝 勝

— ブル キプロク
— 重半 朝 房

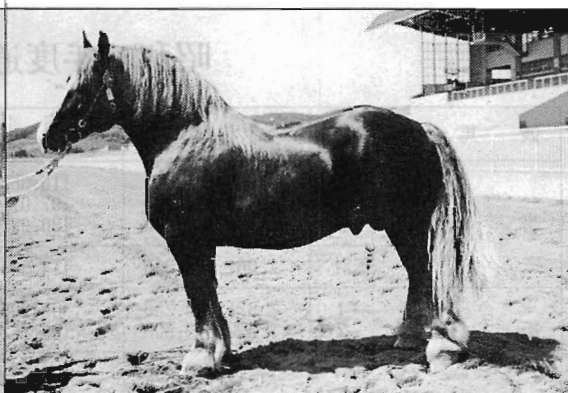


アサヒホマレ号

- | | |
|---------|-------------|
| 1.生年月日 | 昭和50年5月6日 |
| 2.生産地 | 阿寒町 |
| 3.生産者 | 橋本君徳 |
| 4.通算成績 | 154戦9勝 |
| 5.取得賞金額 | 16,551,000円 |
| 6.性・毛色 | 牡青 |
| 7.血統 | |

重系 力 丸

— ペル 二世ロッシーニ
— 重系 大 桜

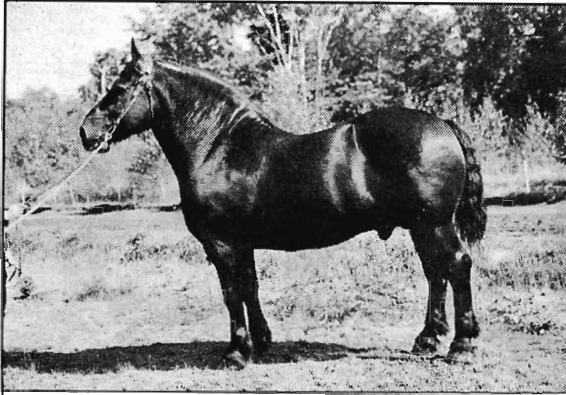


カイリキ号

- | | |
|---------|-------------|
| 1.生年月日 | 昭和50年5月16日 |
| 2.生産地 | 足寄町 |
| 3.生産者 | 水間松男 |
| 4.通算成績 | 157戦27勝 |
| 5.取得賞金額 | 79,340,000円 |
| 6.性・毛色 | 牡栗 |
| 7.血統 | |

重系 桜 水

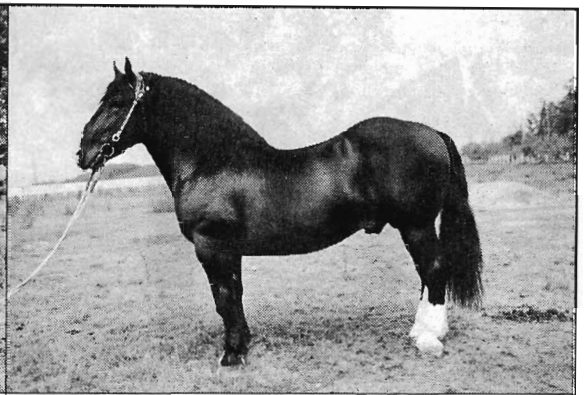
— ペル 第2オデオン
— 重半 洋 国



カワアらし号

1. 生年月日 昭和50年4月22日
2. 生産地 日高町
3. 生産者 小坂橋 議
4. 通算成績 164戦16勝
5. 取得賞金額 27,909,500円
6. 性・毛色 牡青
7. 血統

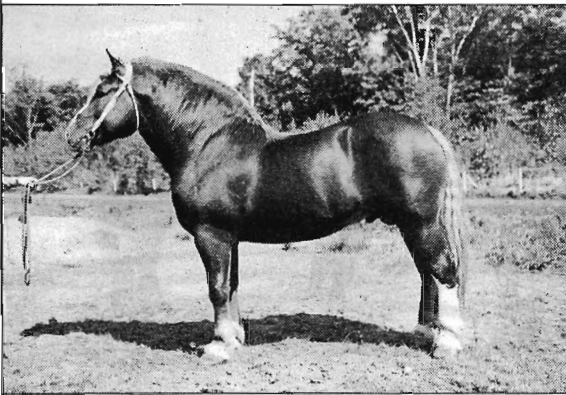
重系 千白 — ペル 産 日
重系 月 姫



キタノサブロウ号

1. 生年月日 昭和50年4月8日
2. 生産地 網走市
3. 生産者 遠藤竹市
4. 通算成績 99戦21勝
5. 取得賞金額 18,940,000円
6. 性・毛色 牡鹿
7. 血統

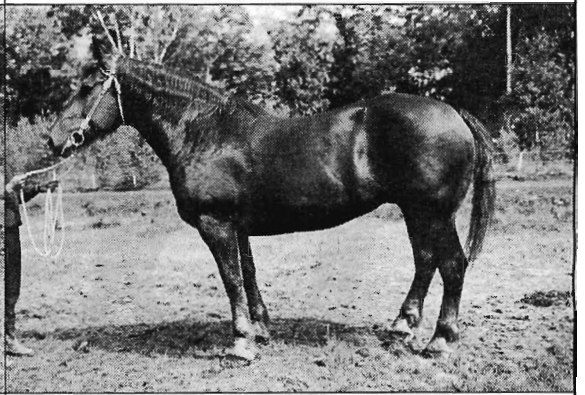
重系 嶺宝 — ペル 二世ロッシーニ
重半 初花



キタノセイコ号

1. 生年月日 昭和50年4月30日
2. 生産地 女満別町
3. 生産者 高木幸雄
4. 通算成績 144戦17勝
5. 取得賞金額 14,048,000円
6. 性・毛色 牡栗
7. 血統

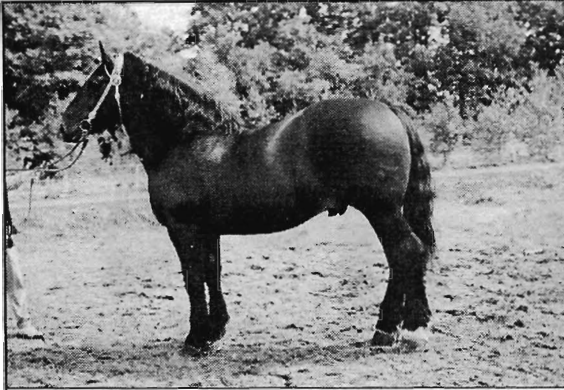
中半 勇幸 — 中半 クリタケ
重半 パトリ二世



キヨタカラ号

1. 生年月日 昭和50年5月3日
2. 生産地 豊頃町
3. 生産者 武内昭三
4. 通算成績 95戦24勝
5. 取得賞金額 27,172,000円
6. 性・毛色 牡栗
7. 血統

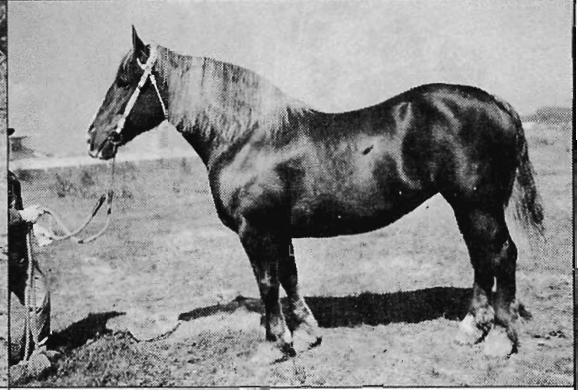
重半 晏露の九 — ブル 鉄鯉
重系 晏露



キングテンリュウ号

1. 生年月日 昭和50年 4月28日
2. 生産地 池田町
3. 生産者 中村 米良
4. 通算成績 143戦19勝
5. 取得賞金額 15,455,000円
6. 性・毛色 牡 鹿
7. 血統

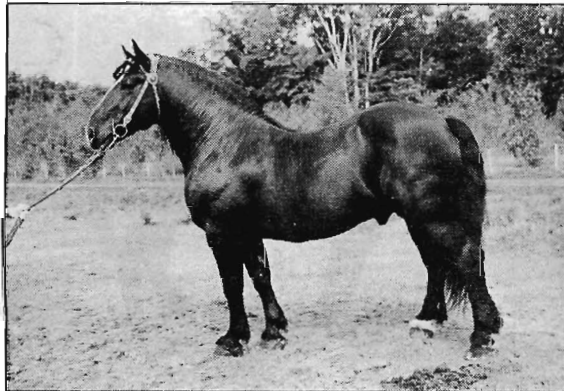
ブル系 鉄力 — {ブル 鉄 鯉
重半 惠 雲



キングヒメ号

1. 生年月日 昭和50年 4月10日
2. 生産地 新得町
3. 生産者 深川 繁信
4. 通算成績 131戦20勝
5. 取得賞金額 15,106,000円
6. 性・毛色 牡 栗
7. 血統

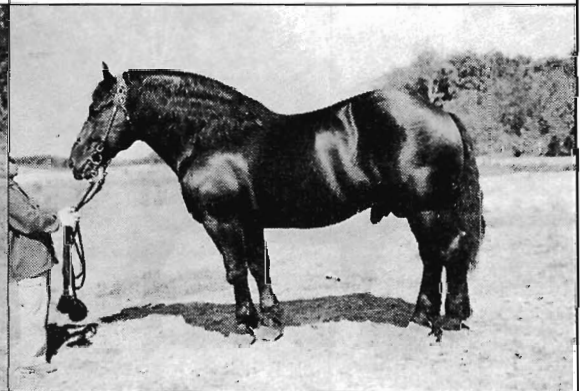
重半 栄晏 — {重半 晏 栄
重半 光 栄



コマカブト号

1. 生年月日 昭和50年 4月26日
2. 生産地 鹿追町
3. 生産者 山中 勝一
4. 通算成績 147戦20勝
5. 取得賞金額 12,621,000円
6. 性・毛色 牡 青
7. 血統

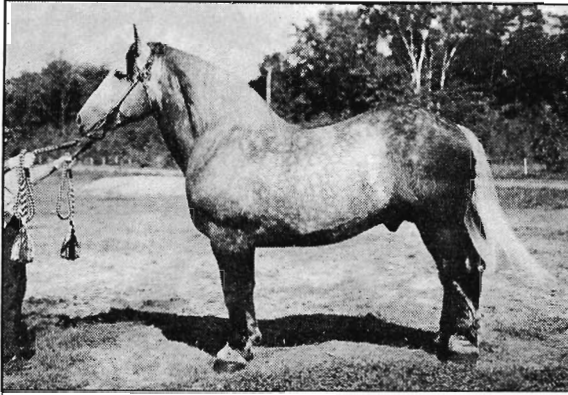
重系 朝日桜 — {ペル 丹 朝
重半 第二桜



センポイント号

1. 生年月日 昭和50年 5月20日
2. 生産地 本別町
3. 生産者 今野 忠志
4. 通算成績 137戦18勝
5. 取得賞金額 19,633,500円
6. 性・毛色 牡 青
7. 血統

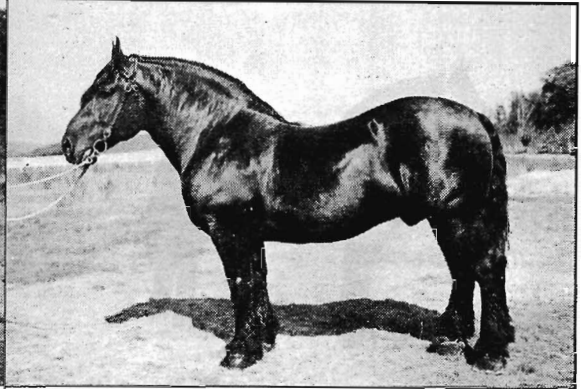
ペル系 晏勝 — {ペル ダンディ
重半 晏 梅



タマカエデ号

1. 生年月日 昭和50年5月14日
2. 生産地 紋別市
3. 生産者 滝沢武雄
4. 通算成績 114戦16勝
5. 取得賞金額 9,622,000円
6. 性・毛色 牡 芦
7. 血統

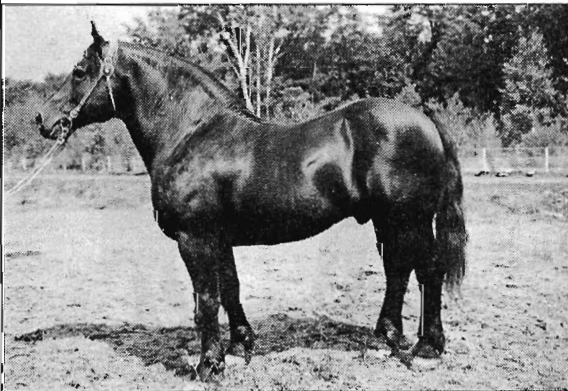
重系 玉楓 — ペル 楓 朝
重半 玉姫



トカチノボル号

1. 生年月日 昭和50年5月3日
2. 生産地 紋別市
3. 生産者 笹崎義雄
4. 通算成績 147戦18勝
5. 取得賞金額 25,049,000円
6. 性・毛色 牡 青
7. 血統

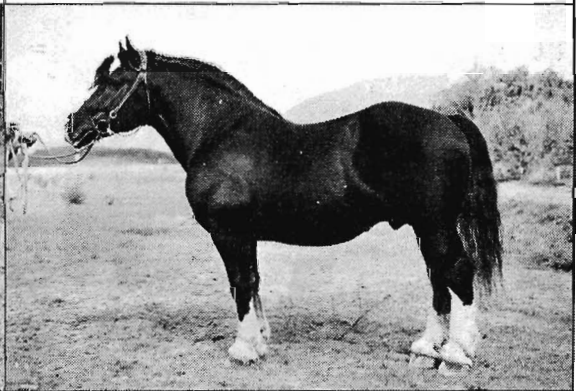
ペル系 貴の花 — ペル 楓 朝
重系 初姫



トキノエイユウ号

1. 生年月日 昭和50年5月5日
2. 生産地 別海町
3. 生産者 工藤 馨
4. 通算成績 120戦19勝
5. 取得賞金額 20,177,000円
6. 性・毛色 牡 青
7. 血統

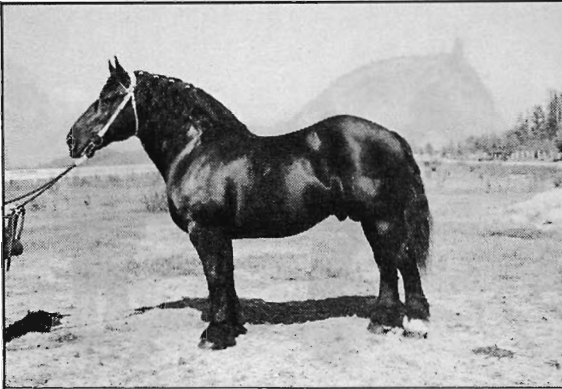
中半 竜玉 — 重半 竜松
中半 興花



ドラゴンドッシュュ号

1. 生年月日 昭和50年3月28日
2. 生産地 春美町
3. 生産者 村上福太郎
4. 通算成績 145戦9勝
5. 取得賞金額 25,418,000円
6. 性・毛色 牡 栗
7. 血統

中半 ジャンボ勲 — 重半 晏 栄
中半 玉 錦



ネムロボーイ号

1. 生年月日 昭和50年5月22日
2. 生産地 中標津町
3. 生産者 白石孝治
4. 通算成績 140戦11勝
5. 取得賞金額 9,032,000円
6. 性・毛色 牡青
7. 血統

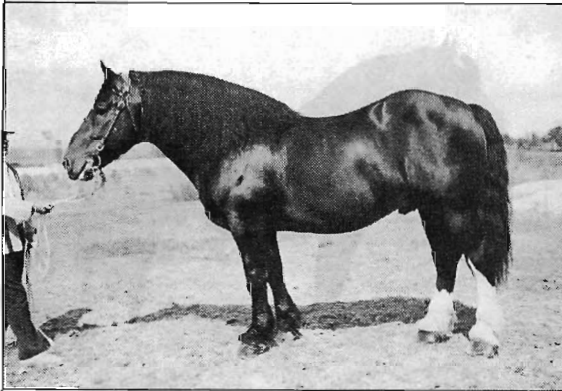
中半 竜玉 — [中半 玉根
 重半 春姫



ハクバノオーザ号

1. 生年月日 昭和50年5月4日
2. 生産地 興部町
3. 生産者 高野国一
4. 通算成績 83戦20勝
5. 取得賞金額 9,438,000円
6. 性・毛色 牡芦
7. 血統

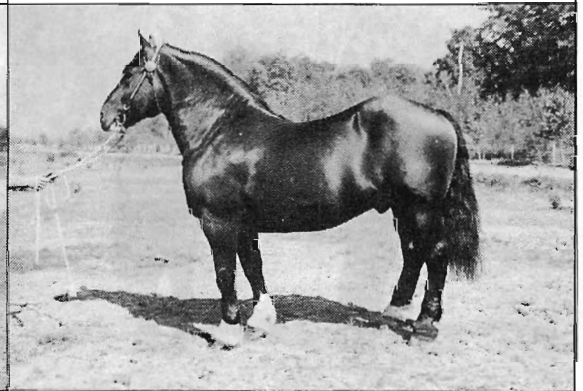
重半 日光 — [ペル 楓朝
 中半 初姫



ハナノリュウ号

1. 生年月日 昭和50年5月13日
2. 生産地 豊頃町
3. 生産者 榎 己之助
4. 通算成績 116戦17勝
5. 取得賞金額 8,623,000円
6. 性・毛色 牡鹿
7. 血統

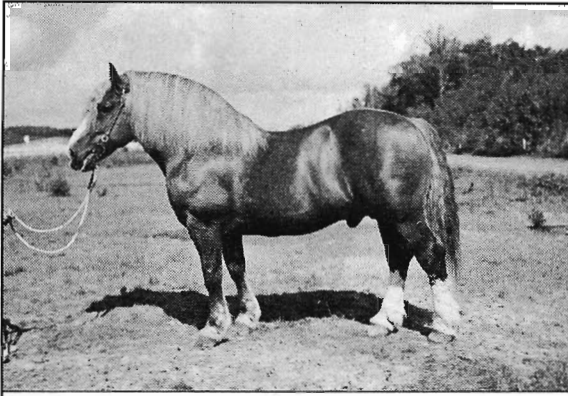
重半 秀風 — [ブル 鉄鯉
 重系 花山



ハヤホマレ号

1. 生年月日 昭和50年5月7日
2. 生産地 網走市
3. 生産者 川瀬芳雄
4. 通算成績 154戦41勝
5. 取得賞金額 94,727,000円
6. 性・毛色 牡鹿
7. 血統

重半 勝春 — [ペル 二世ロッキーニ
 中半 初姫

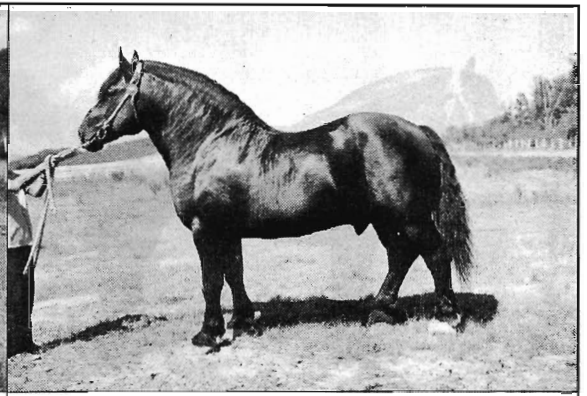


フジノポリ号

- 1. 生年月日 昭和50年4月17日
- 2. 生産地 浜中町
- 3. 生産者 白崎 吉太郎
- 4. 通算成績 123戦20勝
- 5. 取得賞金額 13,107,000円
- 6. 性・毛色 牡 栗
- 7. 血統

重半 春風

— [ブル ケルエクラ
重系 白菊

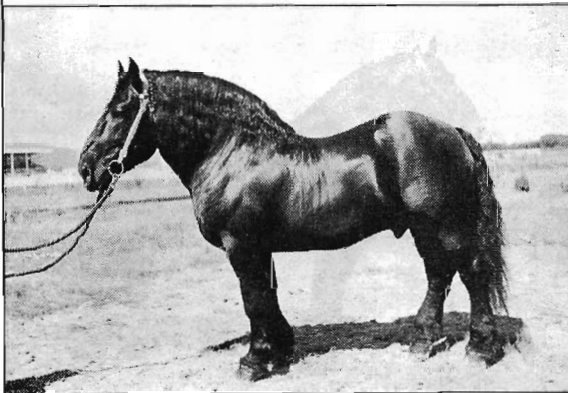


ブラザ号

- 1. 生年月日 昭和50年5月25日
- 2. 生産地 弟子屈町
- 3. 生産者 太田 家光
- 4. 通算成績 140戦14勝
- 5. 取得賞金額 9,428,000円
- 6. 性・毛色 牡 青
- 7. 血統

重半 虹月

— [ベル 虹裁
中半 三日月

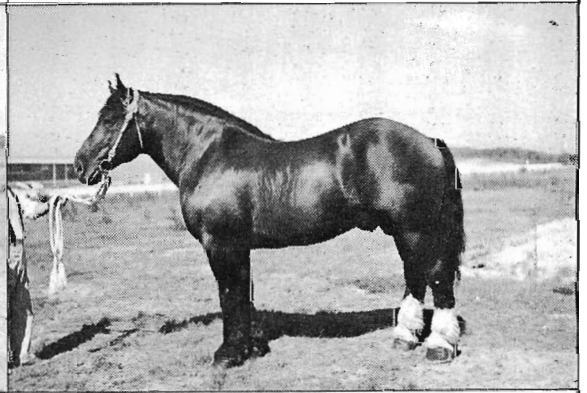


ホッカイオー号

- 1. 生年月日 昭和50年5月30日
- 2. 生産地 幕別町
- 3. 生産者 辻 清
- 4. 通算成績 127戦21勝
- 5. 取得賞金額 11,117,000円
- 6. 性・毛色 牡 青
- 7. 血統

ベル系 都栄

— [ベル 久都
ベル 栄桜

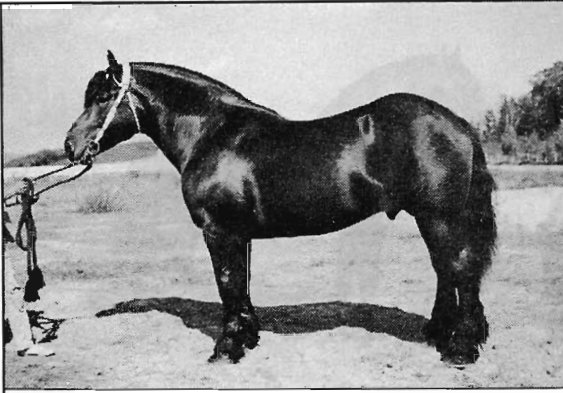


マルタツトップ号

- 1. 生年月日 昭和50年4月5日
- 2. 生産地 虻田町
- 3. 生産者 立谷 貢
- 4. 通算成績 139戦17勝
- 5. 取得賞金額 10,230,000円
- 6. 性・毛色 牡 鹿
- 7. 血統

重半 新竜

— [重系 千竜
重半 紅

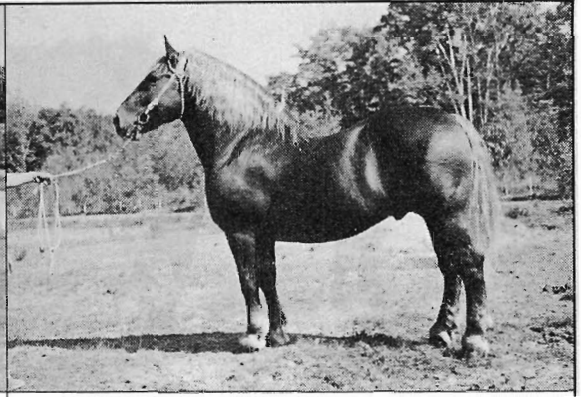


ムツコマ号

- 1.生年月日 昭和50年5月25日
- 2.生産地 阿寒町
- 3.生産者 斉藤六市
- 4.通算成績 111戦16勝
- 5.取得賞金額 13,286,000円
- 6.性・毛色 牡鹿
- 7.血統

重系 春盛

— ペル 2世ロッシーニ
— 重系 桜姫

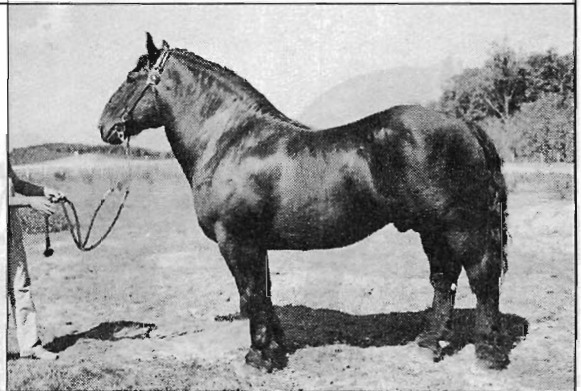


ムツノベア号

- 1.生年月日 昭和50年4月28日
- 2.生産地 北見市
- 3.生産者 萩原和幸
- 4.通算成績 155戦14勝
- 5.取得賞金額 14,361,000円
- 6.性・毛色 牡栗
- 7.血統

中半 竜宝

— 中半 豊益
— 中半 第2初姫





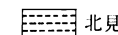

ヤマトムサシ号

- 1.生年月日 昭和50年4月20日
- 2.生産地 中川町
- 3.生産者 山内喜一
- 4.通算成績 157戦15勝
- 5.取得賞金額 13,683,000円
- 6.性・毛色 牡青
- 7.血統

重系 北星山

— ペル 安栄
— 重系 初姫

昭和60年度市営競馬日程表(予定)

 帯広
  旭川
  北見
  岩見沢

4	1	2	3	4	5	6	⑦	8	9	10	11	12	13	⑭	15	16	17	18	19	20	⑳	㉑	㉒	23	24	25	26	27	⑳	㉑	30		
月																																	
5	1	2	③	4	⑤	⑥	7	8	9	10	11	⑫	13	14	15	16	17	18	⑲	20	21	22	23	24	25	⑳	27	28	29	30	31		
月																																	
6	1	②	3	4	5	6	7	8	⑨	10	11	12	13	14	15	⑯	17	18	19	20	21	22	㉓	24	25	26	27	28	29	⑳			
月																																	
7	1	2	3	4	5	6	⑦	8	9	10	11	12	13	⑭	15	16	17	18	19	20	㉑	22	23	24	25	26	27	⑳	29	30	31		
月																																	
8	1	2	3	④	5	6	7	8	9	10	⑪	12	13	14	15	16	17	⑱	19	20	21	22	23	24	㉒	26	27	28	29	30	31		
月																																	
9	①	2	3	4	5	6	7	⑧	9	10	11	12	13	14	⑮	⑯	17	18	19	20	21	22	㉓	㉔	25	26	27	28	㉕	30			
月																																	
10	1	2	3	4	5	⑥	7	8	9	⑩	11	12	⑬	14	15	16	17	18	19	⑳	21	22	23	24	25	26	㉑	28	29	30	31		
月																																	
11	1	2	③	④	5	6	7	8	9	⑩	11	12	13	14	15	16	⑰	18	19	20	21	22	㉓	㉔	25	26	27	28	29	30			
月																																	

昭和60年度道営競馬日程表(予定)

 岩見沢
  旭川
  札幌

4	1	2	3	4	5	6	⑦	8	9	10	11	12	13	⑭	15	16	17	18	19	20	㉑	22	23	24	25	26	27	⑳	㉑	30			
月																																	
5	1	2	③	4	⑤	⑥	7	8	9	10	11	⑫	13	14	15	16	17	18	⑲	20	21	22	23	24	25	⑳	27	28	29	30	31		
月																																	
6	1	②	3	4	5	6	7	8	⑨	10	11	12	13	14	15	⑯	17	18	19	20	21	22	㉓	24	25	26	27	28	29	⑳			
月																																	
7	1	2	3	4	5	6	⑦	8	9	10	11	12	13	⑭	15	16	17	18	19	20	㉑	22	23	24	25	26	27	⑳	29	30	31		
月																																	
8	1	2	3	④	5	6	7	8	9	10	⑪	12	13	14	15	16	17	⑱	19	20	21	22	23	24	㉒	26	27	28	29	30	31		
月																																	
9	①	2	3	4	5	6	7	⑧	9	10	11	12	13	14	⑮	⑯	17	18	19	20	21	22	㉓	㉔	25	26	27	28	㉕	30			
月																																	
10	1	2	3	4	5	⑥	7	8	9	⑩	11	12	⑬	14	15	16	17	18	19	⑳	21	22	23	24	25	26	㉑	28	29	30	31		
月																																	
11	1	2	③	④	5	6	7	8	9	⑩	11	12	13	14	15	16	⑰	18	19	20	21	22	㉓	㉔	25	26	27	28	29	30			
月																																	



昭和60年 3 月

札幌市北区北10条西 4 丁目北海道畜産会館 2 階 (TEL) 代表747—5345